

洋学文庫  
 文庫 8  
 C 299  
 3



量地指南卷之三

量盤術廣狹法

勢南

處士 村井昌弘編述

陸奥 中山藏書



正面正開方

此術ハ平原曠野の地形本座。左右何れも妨障  
なき場所より。彼方正面の廣狹を量る用也。其法大略  
遠近術の左右開は據く。勘辨すべし。

術云 下は圖とす。作法のこゝく品々始計畢く後 ①本座は盤と  
方正し居盤西より正し目的の左は見込 ②目的の右は見込 ③見通用地は  
其盤乾を要小し斜し目的の右は見込 ④見返のこゝく ⑤定規を  
隨ひく墨引 ③左方へ正し間敷は定く開地を求開印を立  
す。是を見通本座に殘印は立置 ④開地は迂り殘印を

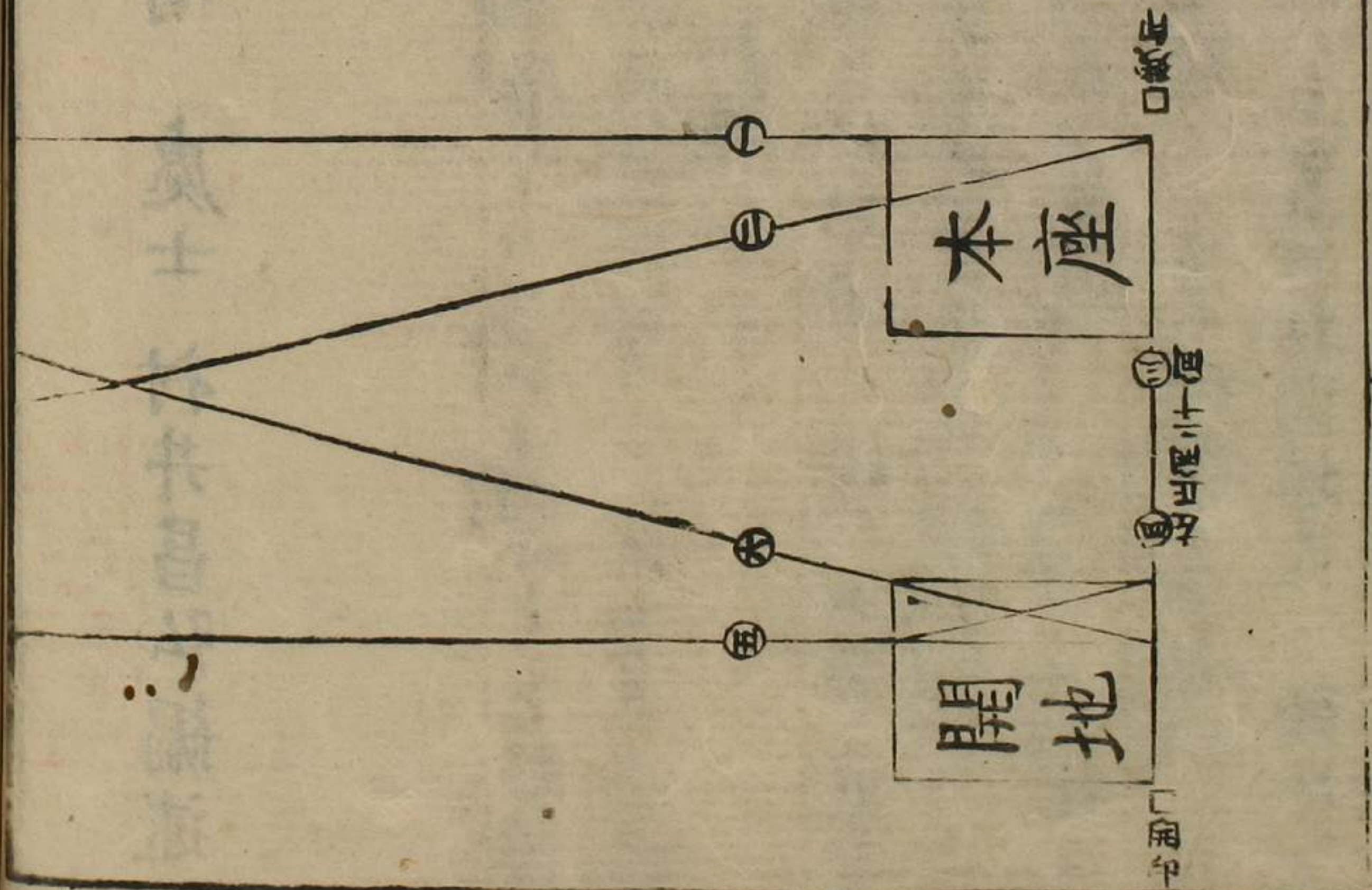
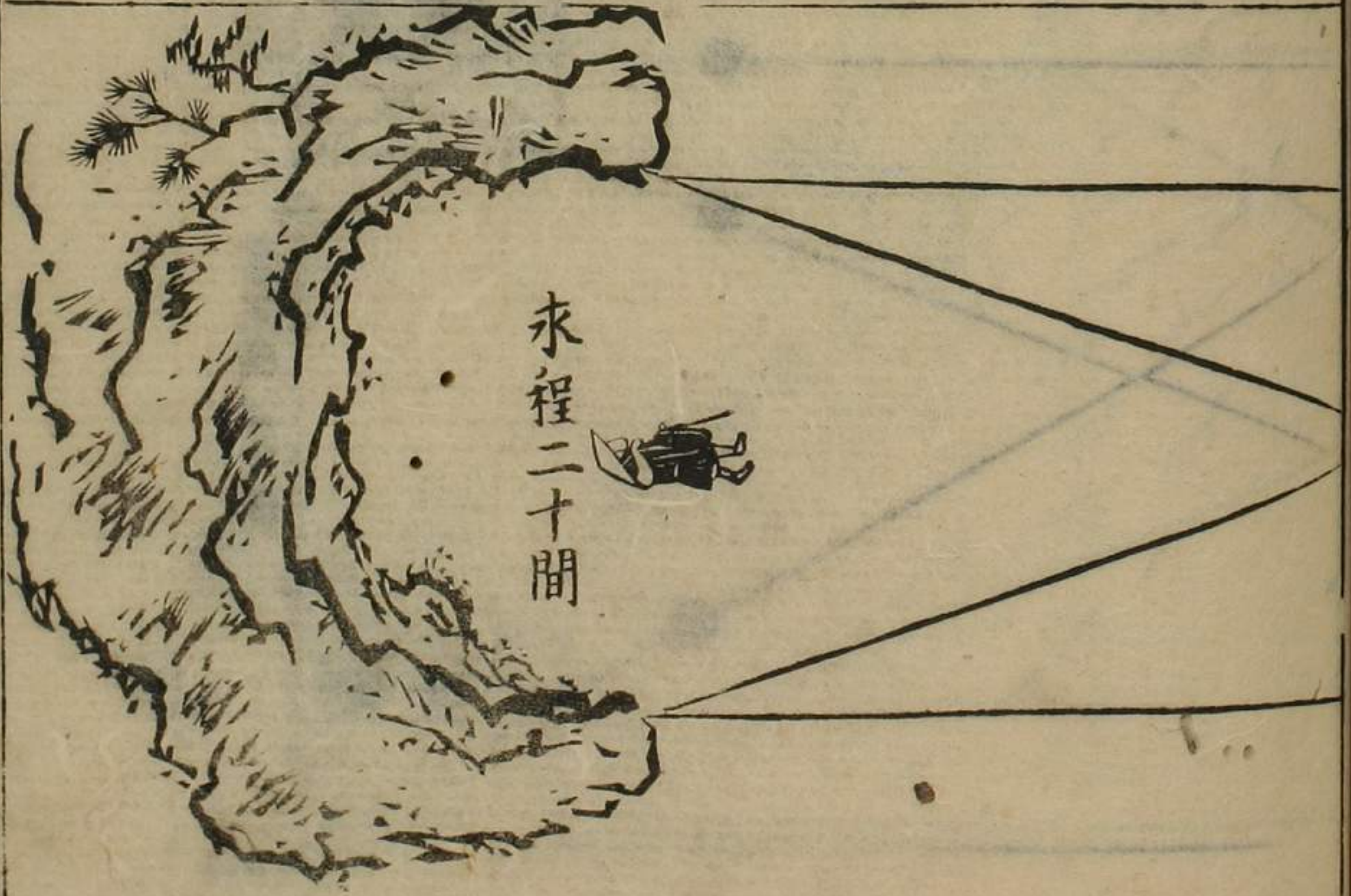
再見一盤方方正極五其  
 盤坤會成一一坤會一盤  
 其作法のヤを死をのめくハ般血北  
 より斜目的の左見返墨  
 を引六今目的の左を見返る  
 墨の般血北乃而と要一正  
 目的の右見返此見返用地と  
 墨引然る時盤の南北  
 兩所二三四五の形いれん  
 盤面大成と  
 今現所の盤北の三六開除  
 左正開の縮なり盤南の三六求程  
 二十間

彼正面の縮り 右方の四目的の  
 廣程 左まくの縮なり  
 左方の四目的の 其盤北の三六  
 右まくの縮なり  
 開除の間數廿間量合其矩  
 開除の間數 少く盤南乃求程の  
 二十間の矩  
 縮分量も同交なり。同交も  
 即廿間なり是求程 廣程二十間  
 間數と知るべし

大成之圖



此又ハ左正開二十間ノ縮ナリ  
 此ハ求程二十間ノ縮ロナリ  
 今運テラ以テ区ラ一交ニ交ニ  
 二十間ノ矩ト名ケ其矩ヲ以テ  
 ○ヲ量ルニ同交ナリ同交ハ即  
 二十間也是求程ノ間數ナリ



斜面正開方

此術もゆる平原廣野の地より彼方の斜面乃廣狭を量る小用其法大畧前法正面正開方

小准知とべし

術云下は図を以て作法乃

おとく始計しそのら①

本座盤と方正し居其

盤東より正し目的の右

と見込②盤良を要し

て斜し目的の左に見込

墨引③右方へ正し開

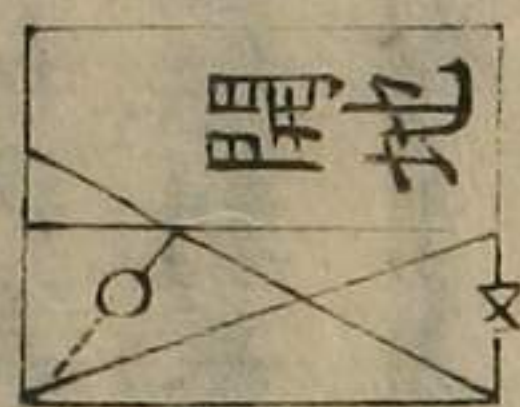
除と永右正開開印と立と

これに見通残印を立置

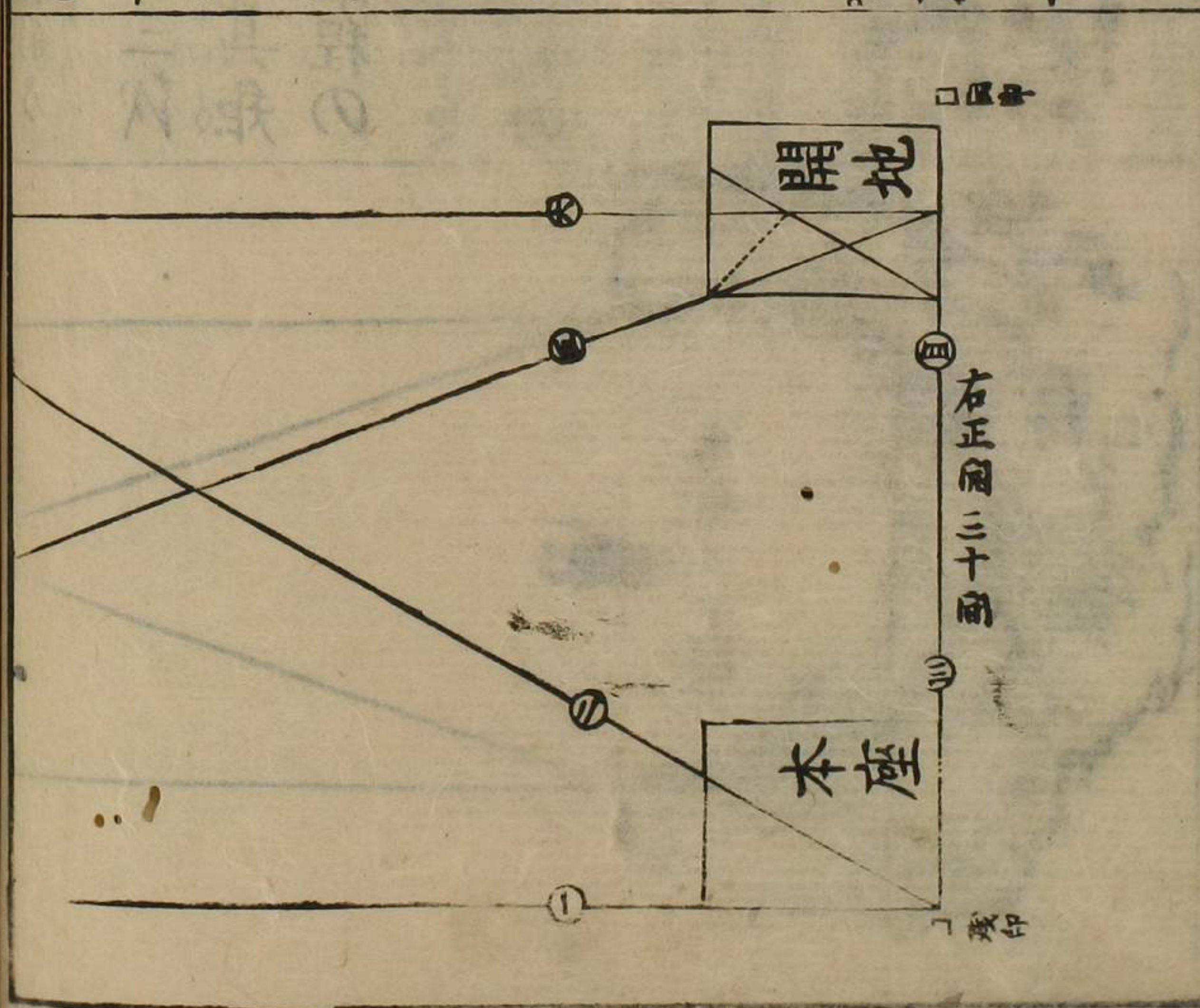
④開地より移り残印と再見

して盤を方正し極⑤其

大成之圖



此又ハ右正開二十間ノ縮口ナリ此〇ハ求程四十間ノ縮口ナリ今渾登ヲ以テ区ヲ一夾ニ夾ニ三間ノ矩ト名ク其矩ヲ以テ〇ヲ量ル一夾三分一有リ夾三分一ハ即四十間ナリ是求程彼面ノ廣ヲ十リ積本文ニ依テ明ラムヘシ



盤巽坎會小して。盤北より斜し目的の右に見返墨引引(六)其墨

今目的の右を見返の盤北の端に要小して正彼面の廣程其大なり時ハ斜小の見返なり

目的の左に目的の左ハ本座の右なり見返定規に隨ひて墨引

界界ハ割盤法をゆく盤巽乃會より左の目的の見込見通の墨

の會ましく斜小界を引渡し然し盤面大成と

今現勢所の盤北の三八開除右正開三十間の縮より盤中乃斜三

斜三といふ割盤法ハ求程彼斜面廣程の縮なり右方の四ハ目的の左

の四ハ目的の右其盤北の三八開除間數三十間を量合其矩

開除の間數をゆく盤中の斜三の界を量る一夾三分一なり

一夾ハ二十間なり一夾三分一即四十間なり是求程彼方斜面の廣程四十間

の間數なり

正面前後方爰ハ前當開の作法ハ記と後當開も是ハ准して知へ

此術ハ本座の地形窄道堤防等乃狹地あり左右正當小

開除叶ひ難き場より彼正面の廣狹を量り用ゆ其法

開地ハ前後進退して求り然して求程を量るなり大畧

遠近術前後開の格小同ト配合よ

術云下ハ図と云作法のよく品々始計して後一本座ハ盤

方正し居盤東より正小目的の右に見込二其盤を示搖

や小居置盤良を要し斜し目的の左に見込定規に隨

ひて墨引本座に殘印を立より正は彼方間數を定

開除を求り左右ハ開除叶はざるは進て求る見通印を立

目的の右と盤東の定規と此印と三所一條に成し念に

立置べし尤見込の條を別に見通と為し及ぶればなり三開地

迂り殘印を再見して盤を方正し極此所より念の爲し目的

盤良に要し斜し目的の左に見返墨引然し

三四五の形現いど盤面大成と

今現れ所の三、求程廣程の縮なり。

四、種子本座より目的の遠程の縮なり。

縮なり。差、開除前當用の縮口なり。

差口、開除の間數廿五間、量合其矩

をゆく。三、と合して本座より目的の遠程と

種、用、是、を量る、二、変り、其上、差口乃

廿五間を加倍し、假し七十五間と知り、是、以

四、よ、名、々の種間と、扱、新、矩、を、設、く、四、を

其種間七十五間、量合、七、変、半、に、交、之、是、を

十、間、の、矩、其、矩、を、ゆ、く、再、度、三、と、量、る、此、三、を、

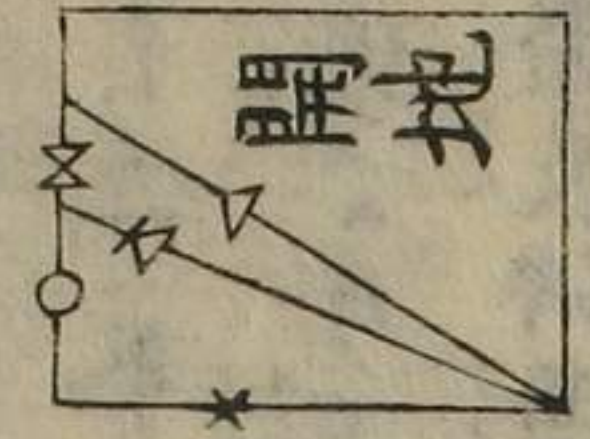
後、度、と、兩、度、量、る、初、度、は、目、的、の、假、の、遠、程、に、用、ひ、後、度、は、求、程、の、間、數、に、用、ひ、元、末、此、三、に、

求程の、三、夾、り、の、三、夾、り、即、

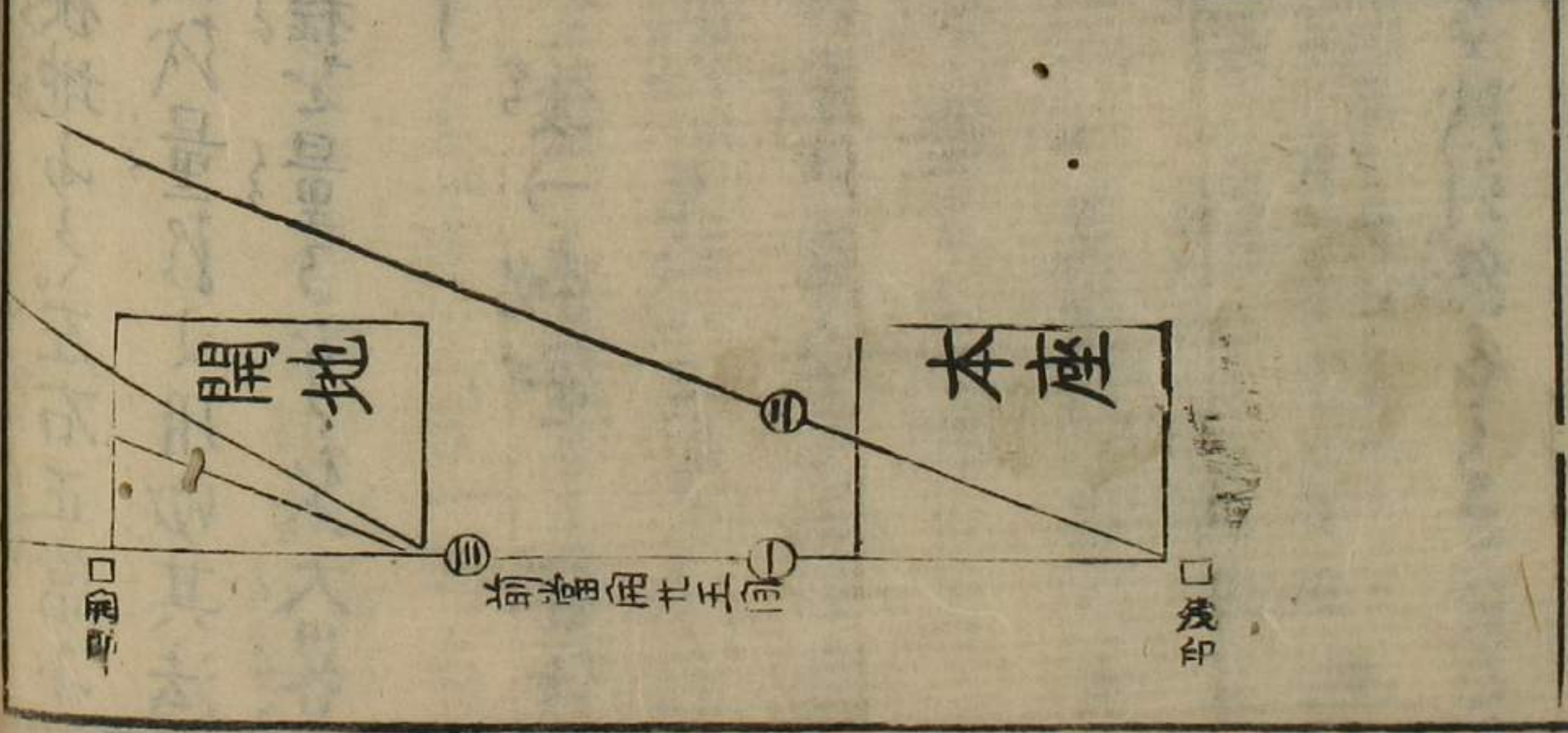
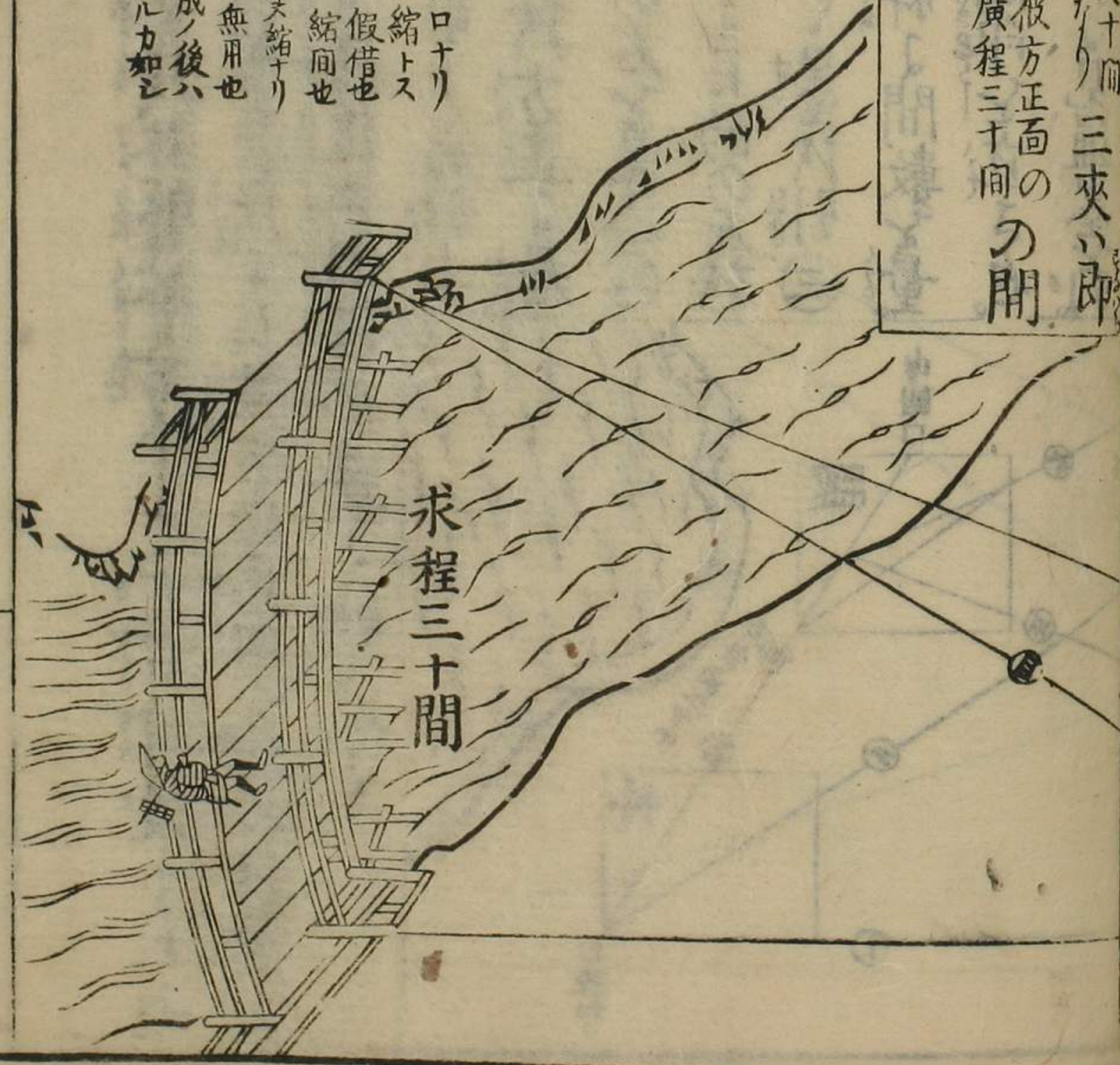
三十間なり、是、求、程、廣、程、三十間、の、間、

數、と、知、る、べ、し

大成之圖



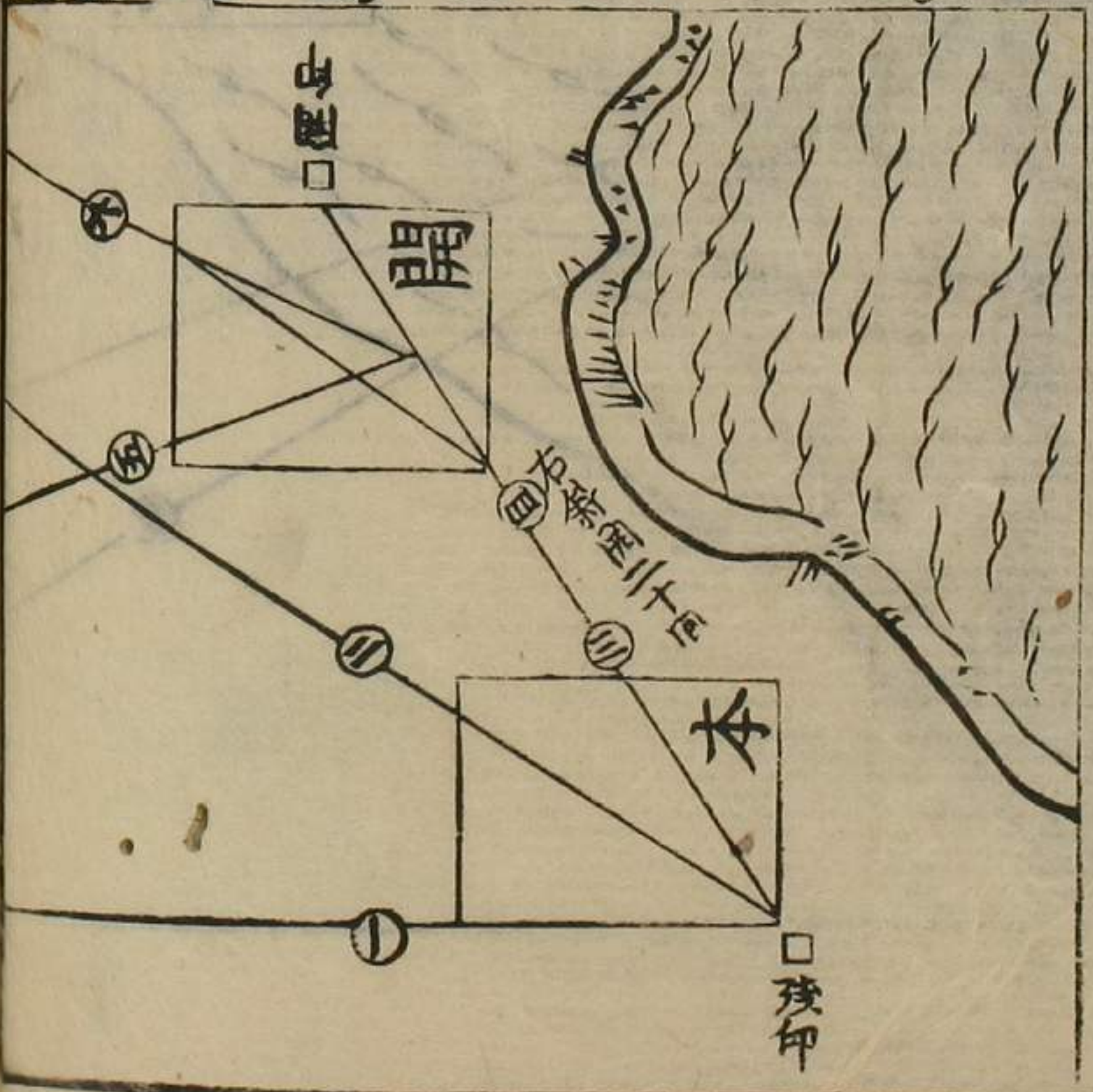
此、区、八、差、也、兩、除、廿、五、間、ノ、縮、口、ナリ  
又、〇、ト、合、一、レ、テ、求、程、間、ノ、縮、ト、ス  
此、〇、ハ、三、也、遠、程、七、十五、間、ノ、假、借、也  
實、八、ト、合、メ、求、程、三十、間、ノ、縮、間、也  
此、八、四、也、遠、程、七、十五、間、ノ、實、縮、ナリ  
此、八、五、也、假、借、也、大、成、ノ、後、ハ、無、用、也  
此、八、五、也、假、借、也、是、又、大、成、ノ、後、ハ、無、用、也  
無、用、也、量、法、委、久、八、本、文、三、述、ル、カ、知、シ



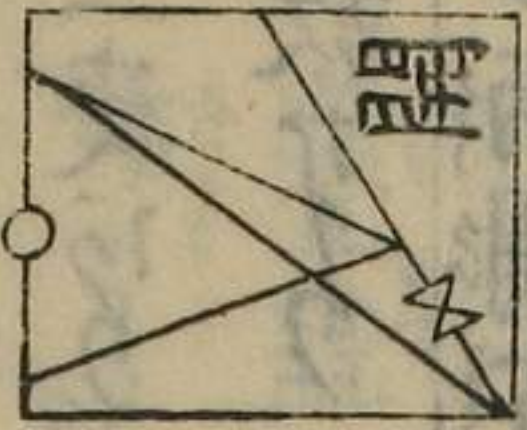
正面斜開方

此術。本座の地形茂林薈蒼等小して。左右前後とと小。正當の開除叶ひがた所より。彼方の正面の廣程を量る。小用也。其法大旨遠近術斜開法に據り曉るべし。

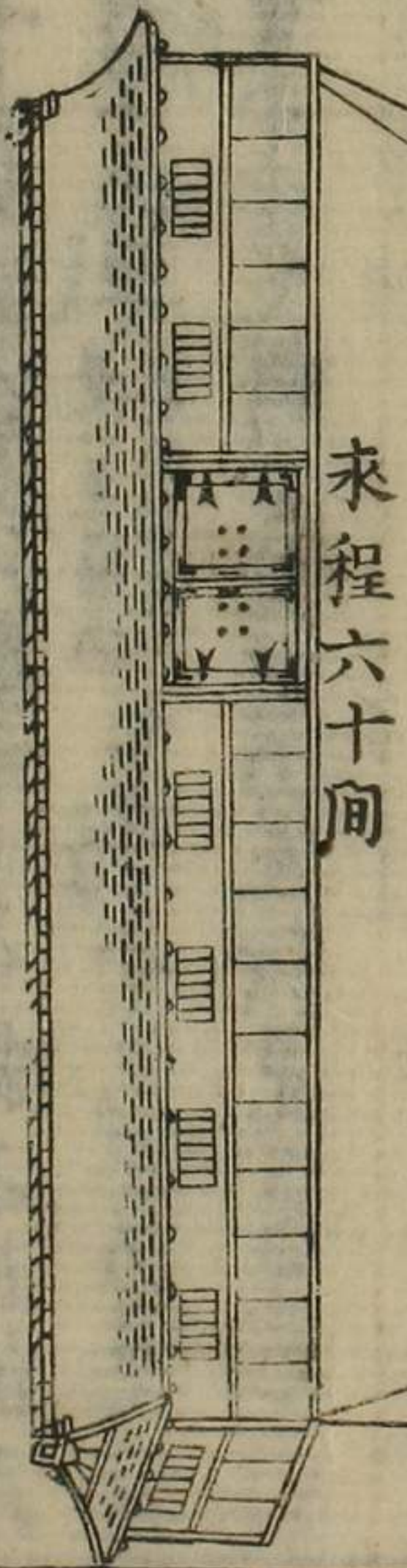
術云 下は図に示す作法の如く始計し  
てのち(一)本座の盤狀方正の居  
盤東より正し目的の右を見込(二)  
其盤良の要小し斜し目的の左に  
見込定規を随ひしき墨引(三)  
本座の右前の方へ斜し間敷を量  
開地を求む 右斜開 二十間 開印を立す也。  
盤良より是とと斜し見通墨引



大成之圖



此は右斜開二十間ノ縮口也  
此は未程六十間ノ縮口ナリ  
又ヲ以テ○ヲ量ルニ三夾有リ  
三夾ハ即六十間ナリ是未程ノ  
間敷ナリ委多ハ本文ノ如シ



本座は残印は立(四)開地ふ至つ。残印は再見して盤を方正  
 居(五)其盤巽を會ふ。見通の墨は要ふ。斜小目的乃  
 石は見返墨は引(六)其墨の要是ハ見通の墨の要なりを要ふ。左の見込の  
 墨乃盤南の端は會ふして斜は目的の左は見返墨を引。  
 然して盤面大成と

今現存所の盤北の斜口開除右斜角二十間の縮口なり。盤南の正口は

求程彼正面廣程の縮間なり。其盤北の斜口は開除の間數廿間

量合渾糸をゆるく此斜口を一変り其矩をゆるく盤南の正口を量取

二変り。三変り即六十間なり。まを求程彼方正向の廣程六十間

間數なり

一知兩開方

此術は彼面一ヶ所の廣程と兩取は開地と求る

術なり。其法目的の左右へ各別は遠程は量り。此兩遠程を

種とく。求程彼方面の廣程と云を知り。尤此作法を舊傳乃

鑿金説ゆ。用るふ益少しとす。初學參攷の爲

姑く之を贅と此術ハ初中後ノ盤ハ三度改てり

術云下は図を云作法のあはく品々始計して後初(一)本座は盤は

方正は居盤東より正は目的の右は見込前もつて目的の右は即本座の左と知る

(二)右方へ正は開除右正用三町を求め開印を立。是は見通本座

要印此印毎例の残印なりども初中後三度の術共を立(三)開地

迂り。再見して盤を方正は極め(四)盤巽を會ふ。其目的目的の右と云を見返墨は引然

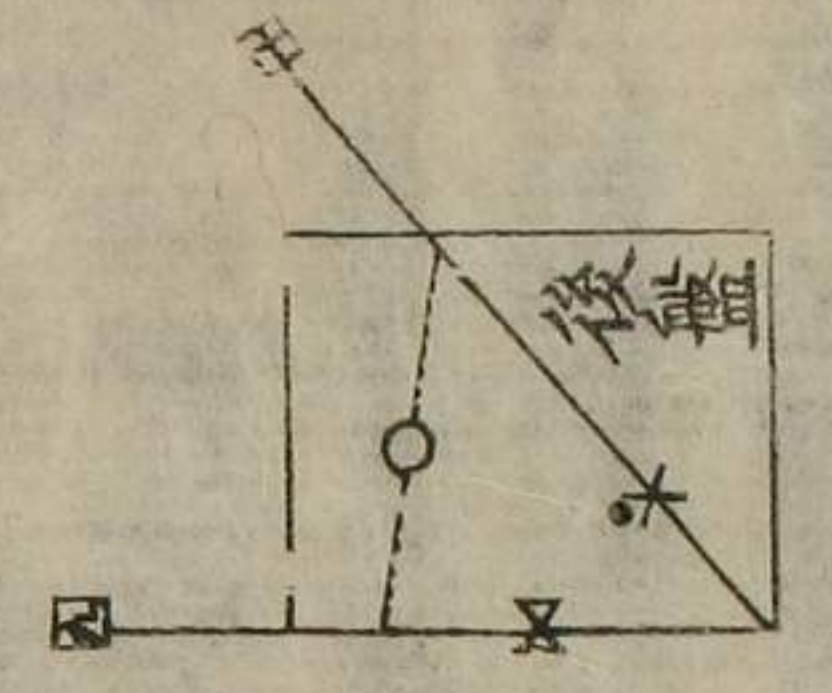
盤巽を會ふと云べしと云ふ。其目的目的の右と云を見返墨は引然

と云ふ三四五の形は。即其三を開除の三町と云ふと合

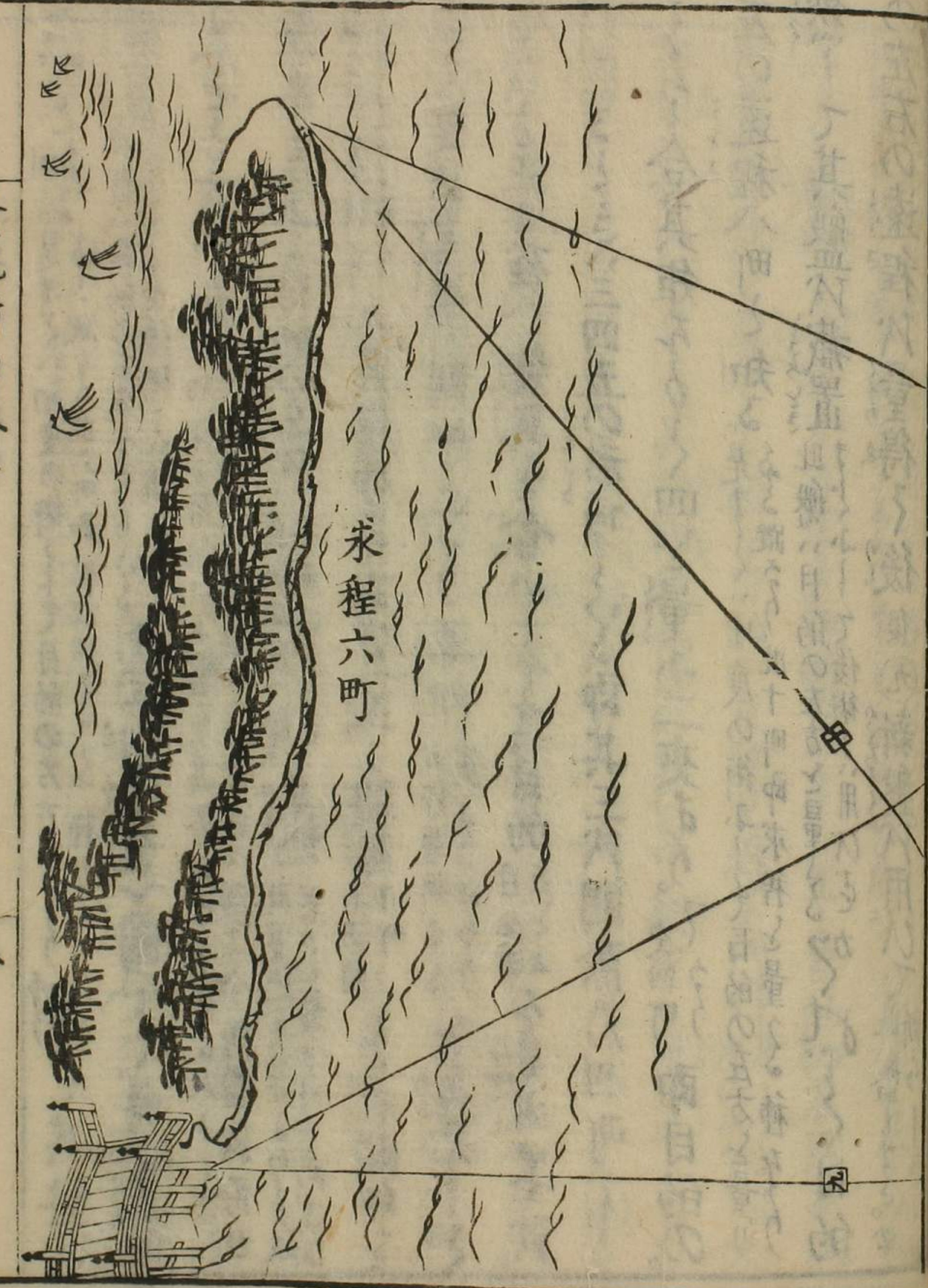
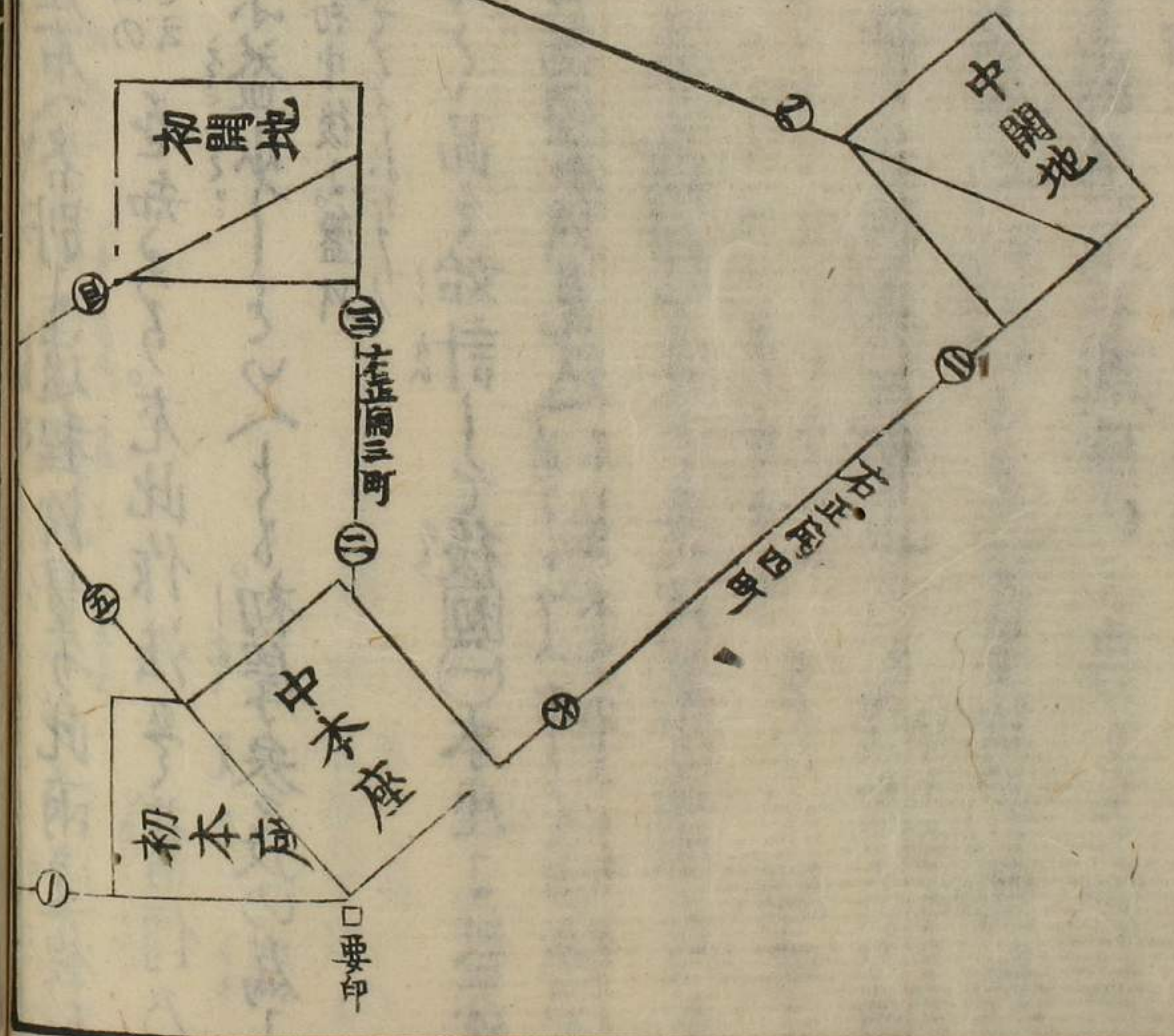
其矩をゆるく四を量る。二変り。即目的の右の遠程



大成之圖



此は右方ノ遠程六町ノ縮也  
 此は左方ノ遠程八町ノ縮也  
 此は永程ノ廣程六町ノ縮也  
 其皇法本文ニ委少記ス宜ク  
 勘合スヘシ



皇地打南卷三

六町と知る。是すまぐい初度の術して目的の右方をさるる。然して其盤法

藏置此盤ハ目的の右方をさるる。中五初新盤と圖ハ斜に要印

合せり。方正に居初術は用ひしる盤を其終用ゆる事より。今新盤は用也

盤東より正に目的の左に目的の左ハ即見込此見込は正に

故よ。今見る来より故よ。今見る来より。六其盤西より右方正に開除右正角を求開印を

立る。是は見通七開地より要印此印前術を再見し

盤は方正に極八盤巽を會此印前術して其目的左と云を見返墨は

引然るとさ三四五の形に此印前術。即其三は開除乃四町

さるる合。其矩をのり四と量小二変あり。即目的の

左の遠程八町と知る。是すまぐい中度の術して目的の左方と量り

然して其盤は藏置此盤ハ目的の左方と量り。かくれど目的

の左右の遠程は量得る後九新盤は用ひて此盤は

初學のまぐいと曉しやせり。今新盤を用也。初術は居る

ふとく要印は合せり方正に極盤東より正に目的の右に見込

十其盤良と要小して斜に目的の左に見返墨は引是すまぐい後界

初割盤法はゆる。其後術の見返の墨と中術ゆる量置ゆる目

的の左方の遠程八町は量合渾ををり後術の見返の墨は。其矩を

とく後術の見込の盤東は初術ゆる量置ゆる目的乃右方れ

遠程六町量取盤北より盤南の方へ量取。其六町の量留より八町

の墨の終へ小斜小界は引渡然して盤面大成と

今現る所の見込ハ目的の右より遠程なり。見返ら目的の

左より遠程なり。今引渡ゆる小斜の界ハ彼面乃廣程なり。

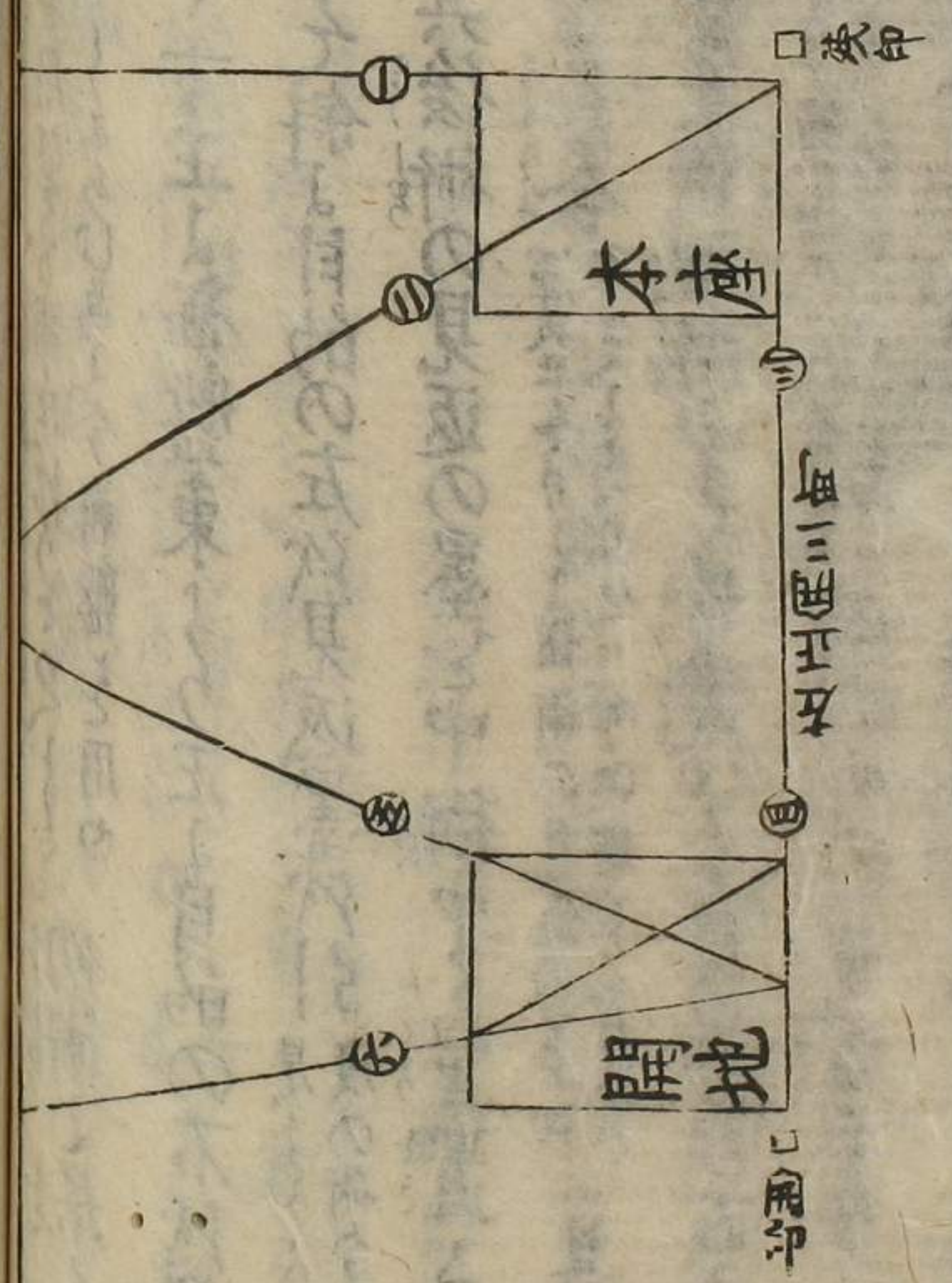
其見込見返は量ゆる矩ゆる。此界は量ゆる六変あり。一夾一町

六変ハ即六町なり。是求程の間數なり

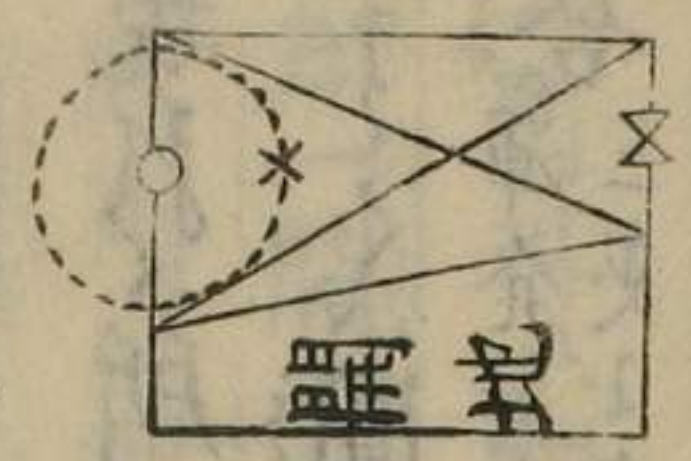
圓知正開方

此術、野外の村里海中の嶋嶼とて、彼所、在る取の圓周、量知る小用也。其法、往々廣狹術、速る取とて、推知とて、聊異かる作法、術中、記と

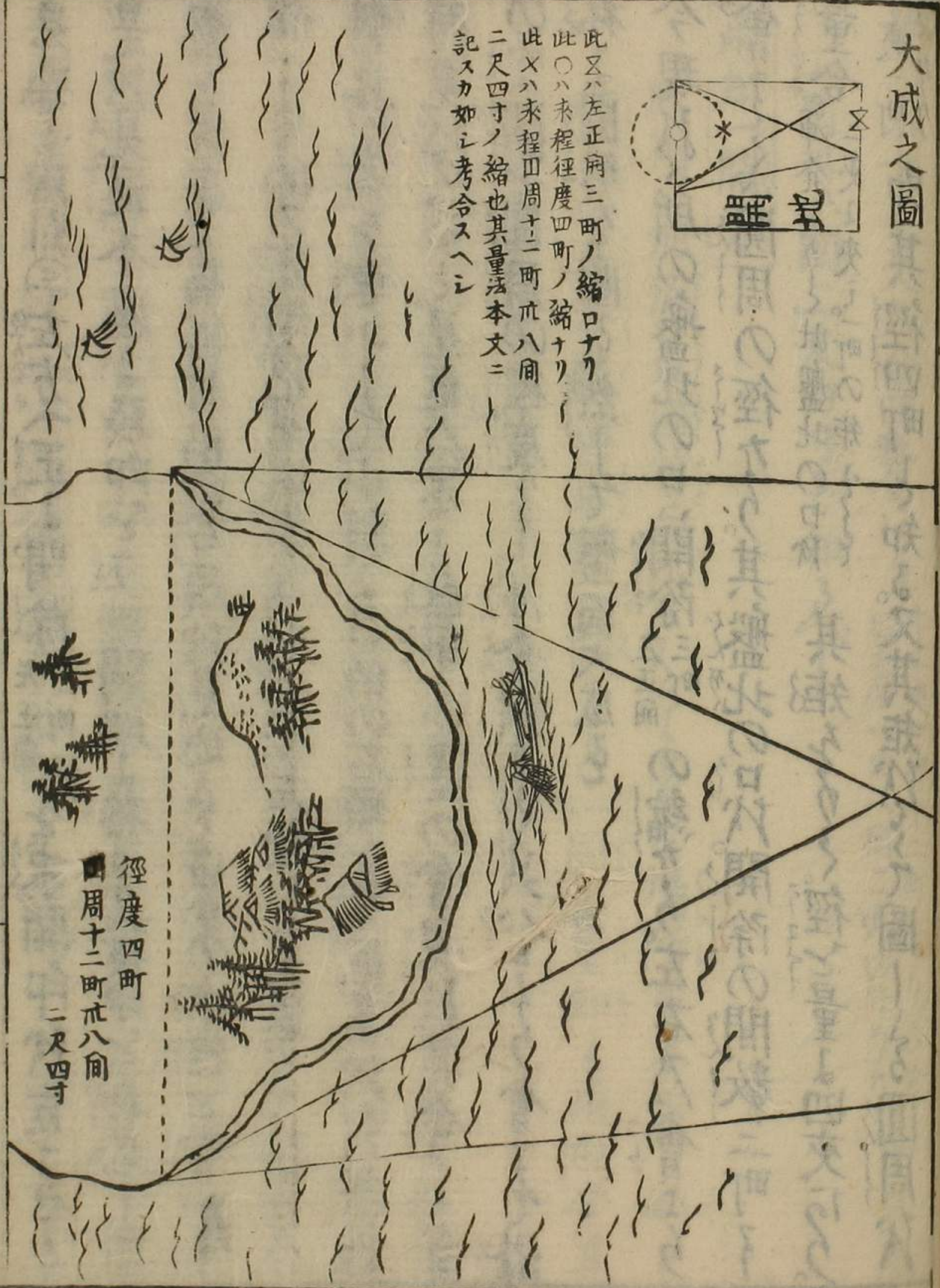
術云、下、図、取、品々、作法のおと、始計、ろくのら、(一)本座、盤、方正、居、盤、西、正、目的、の、左、頬、を見、込、(二)其、盤、乾、を、要、小、して、斜、目的、の、右、頬、を



大成之圖



此、区、左、正、角、三、町、ノ、縮、ロ、ナリ、此、〇、ハ、未、程、徑、度、四、町、ノ、縮、ナリ、此、×、ハ、未、程、田、周、十、二、町、八、間、二、尺、四、寸、ノ、縮、也、其、量、法、本、文、ニ、記、ス、カ、如、シ、考、合、ス、ヘ、シ



見込墨引三左方へ正三開除三を求開印三立三を  
是三見通本座三殘印三立三開地三移三其殘印三再見三て  
盤三と方正三極三目的三の右頬三見込三墨三の中程三と會三  
斜三目的三の左頬三見返三墨三引三今左頬三を見返三る三於墨三乃  
盤三北三の端三を要三小三して小斜三目的三の右頬三を見返三墨三引三然三れ  
時三見込三の墨三と見返三乃墨三と盤三中小墨三の會三現三れ其會三と會  
の空間三と圓周三の徑度三と渾發三引三ゆ三其會三より會三より溢三  
杯三圓形三を圖三と然三して盤面三大成三と

今現三れ所三の盤北三の口三開除三の縮三なり左右三乃會三より  
會三より圓周三の徑三なり其盤北三の口三開除三の間數三三町三イ  
量合三渾發三引三此盤北三の口三其矩三をのり徑三と量三は四夾三あり  
一夾三一町三即其徑三四町三と知る又其矩三引三て圖三より圓周三は

量三ふ小十二夾三六分四釐三あり  
十二夾三即十二町三あり六分  
四釐三ハ八間二尺四寸三あり 即其周  
十二町三ハ八間二尺四寸三と知るべし

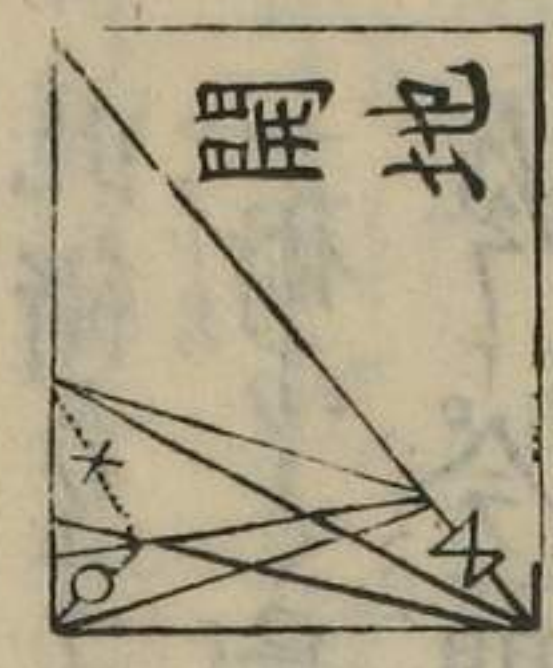
兩知一開方

此術三池沼三葦蕪三澤等三のり三多三き場所三を本座三と仰三る  
彼面三の廣狹三數箇三取三て一開三一三同三は量知三は用也今其  
二箇三所三を量三る作法三ハ三爰三に記三すと

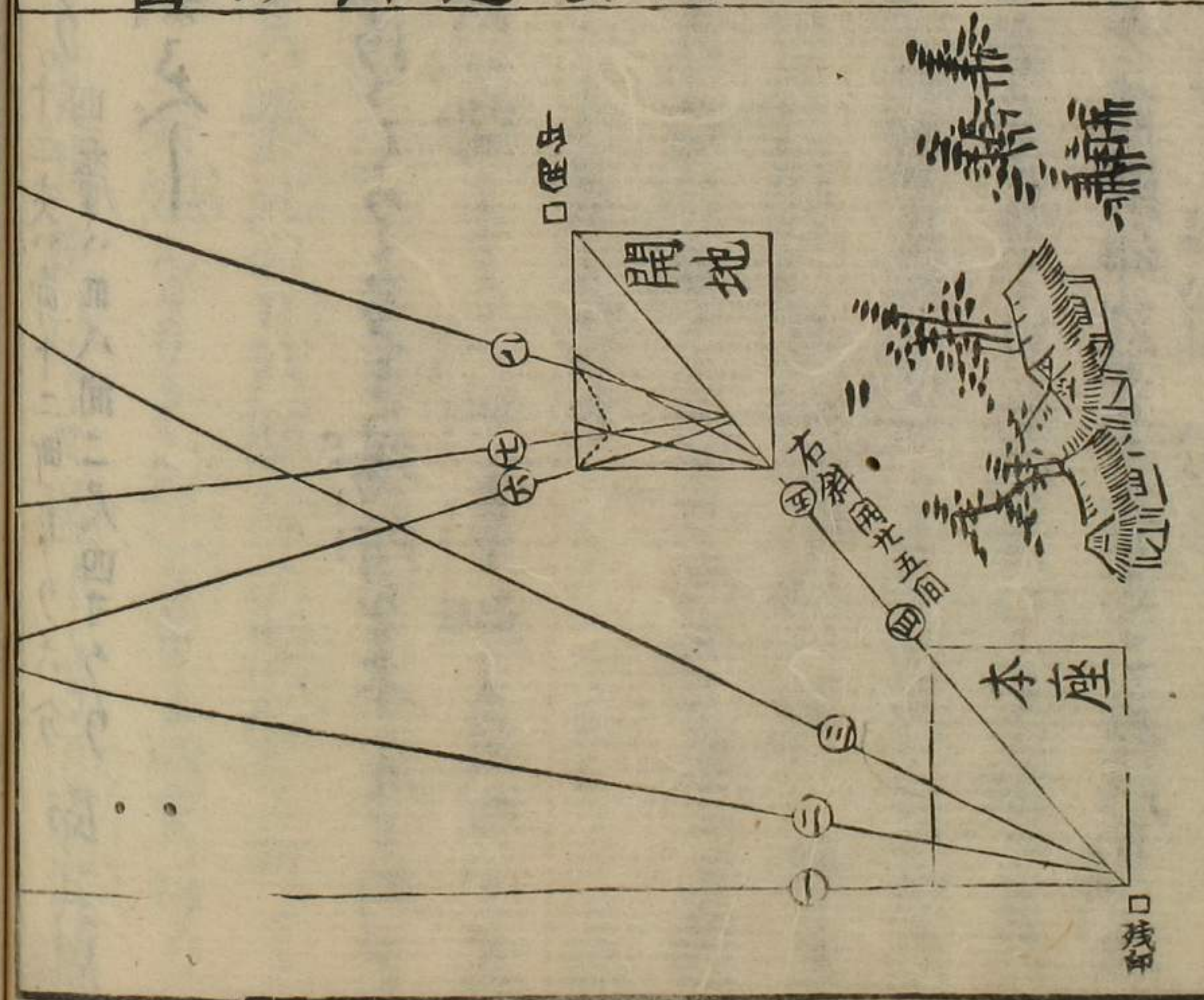
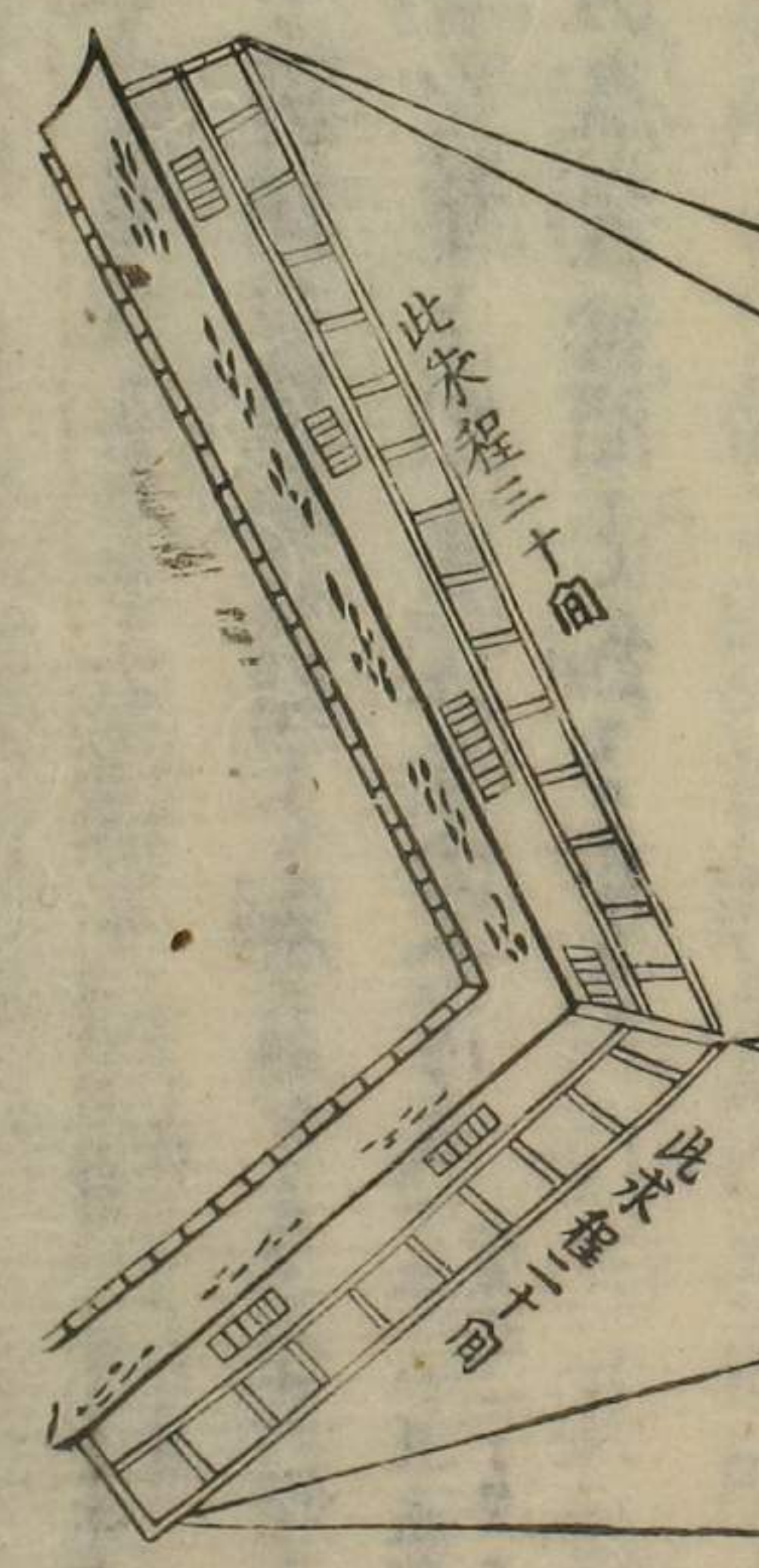
術三云三下三は圖三と云三作法三の三ごと三く始計三畢三ての三ら三一三本座三は盤三引  
横三は方正三は居三此術三の三見込三見返三數多三なり時三ハソ三の盤三東  
より正三目的三の右三見込三二其盤三良三引三要三小三斜三目的三乃  
中三を見込三墨三引三同所三より又斜三目的三の左三を見込三墨三を引  
四右前三へ斜三開除三を求開印三立三を三こ三れ見通三  
本座三は殘印三立三開地三に至三り彼印三と再見三して盤三と方正

小極め(六)其再見の墨と要  
 に一盤異(七)會小一斜  
 目的の右(八)見返墨を引(七)  
 其墨の要(九)成り(十)る所を  
 要(十一)用て斜(十二)目的の左(十三)  
 見通墨(十四)引(十五)初(十六)割(十七)盤(十八)法  
 を(十九)り(二十)く(二十一)盤(二十二)南(二十三)現(二十四)し(二十五)る(二十六)る。  
 三(二十七)所(二十八)見(二十九)込(三十)の(三十一)墨(三十二)と(三十三)三(三十四)所(三十五)見(三十六)返  
 の(三十七)墨(三十八)と(三十九)其(四十)會(四十一)り(四十二)會(四十三)界(四十四)外  
 引(四十五)渡(四十六)と(四十七)と(四十八)二(四十九)所(五十)求(五十一)程(五十二)の  
 縮(五十三)形(五十四)何(五十五)ん(五十六)と(五十七)然(五十八)し(五十九)て(六十)盤(六十一)面  
 大成(六十二)也

大成之圖



△ハ右斜角二十五間ノ縮口也  
 ○ハ一ニノ廣程九間ノ縮口也  
 ×ハ二ニ三ノ廣程九間ノ縮口也  
 △ヲ以テ○ヲ量リ九間ヲ知ル  
 △ヲ以テ×ヲ量リ九間ヲ知ル  
 其審ナルハ本文ニ記ス



軍地指南卷三

今現於所の盤北の斜口右斜間、開除右斜間の縮なり。盤南二所の界の斜口今割盤法にて、來程彼斜間廣程二所の縮なり。其盤北乃斜口を開除の間數九五間、量合此斜口を一夾、夾五間の矩と名づく、其矩はゆく。盤南二二の間、斜界を量るは五分の四なり。九五間の矩を五分と五分の四は九間なり、即二二の間の廣程九間と知るなり。又其矩はゆく。盤南二三の間、斜界を量るは一夾五分の一なり。一夾は九五間五分の二は五間、即二二三の間の廣程九間と知るなり。

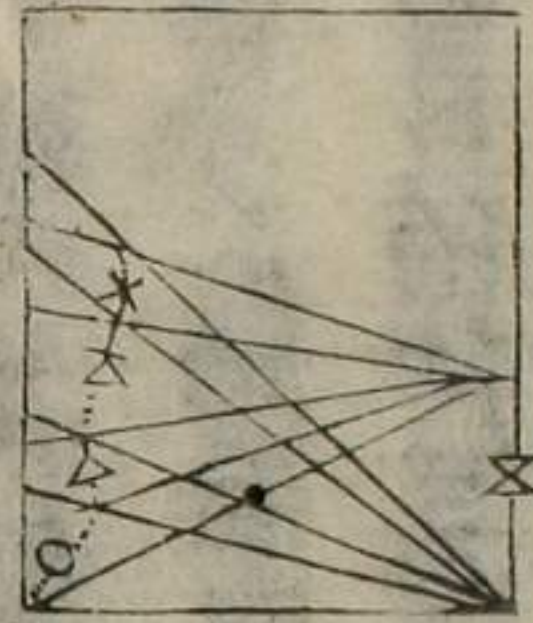
四知一開方

此術ゆきと妨障ある場所より。彼所の廣狹數箇取を一術ゆき量る不用也。其法大畧前術兩知一をゆき推知をゆき。今一開して四取の斜廣は量る作法は記すとすべし。此理は棟とさ、幾巨多乃屈曲宛轉は量るも其事同ト

つねにべー爰は記と取ハ四所をゆき法なり、五取七取とくとも。其術ハお解し

術云下ノ因と云作法のゆく品々始計後一、本座は盤は横は方正居、居盤を横は居る作法、其盤乾を要ゆき正一の目的は見込二、同所より斜は二の目的は見込三、同所より斜は三の目的は見込四、同所より斜は四の目的は見込五、同所より斜は五の目的は見込、各定規に隨ぐひく墨は引六、其盤南より右方へ正開除、開除右正間を求め、開印と立は、是を見通、本座は殘印は立七、開地はゆき、殘印を再見して盤を方正は極八、其盤西より盤良は會九、斜は二の目的は見込九、今一の目的は見返十、同所より斜は三の目的は見返十、同所より斜は四の目的は見返十一、同所より斜は五の目的は見返、各

大成之圖



△右正廂五間ノ縮口ナリ  
 ○八一ノ廣北間ノ縮口ナリ  
 △八一三ノ廣十五間ノ縮口也  
 △八一四ノ廣北間ノ縮口ナリ  
 ×八一五ノ廣十間ノ縮口ナリ  
 其量法巨細ハ本文ニシルス  
 高合スヘシ

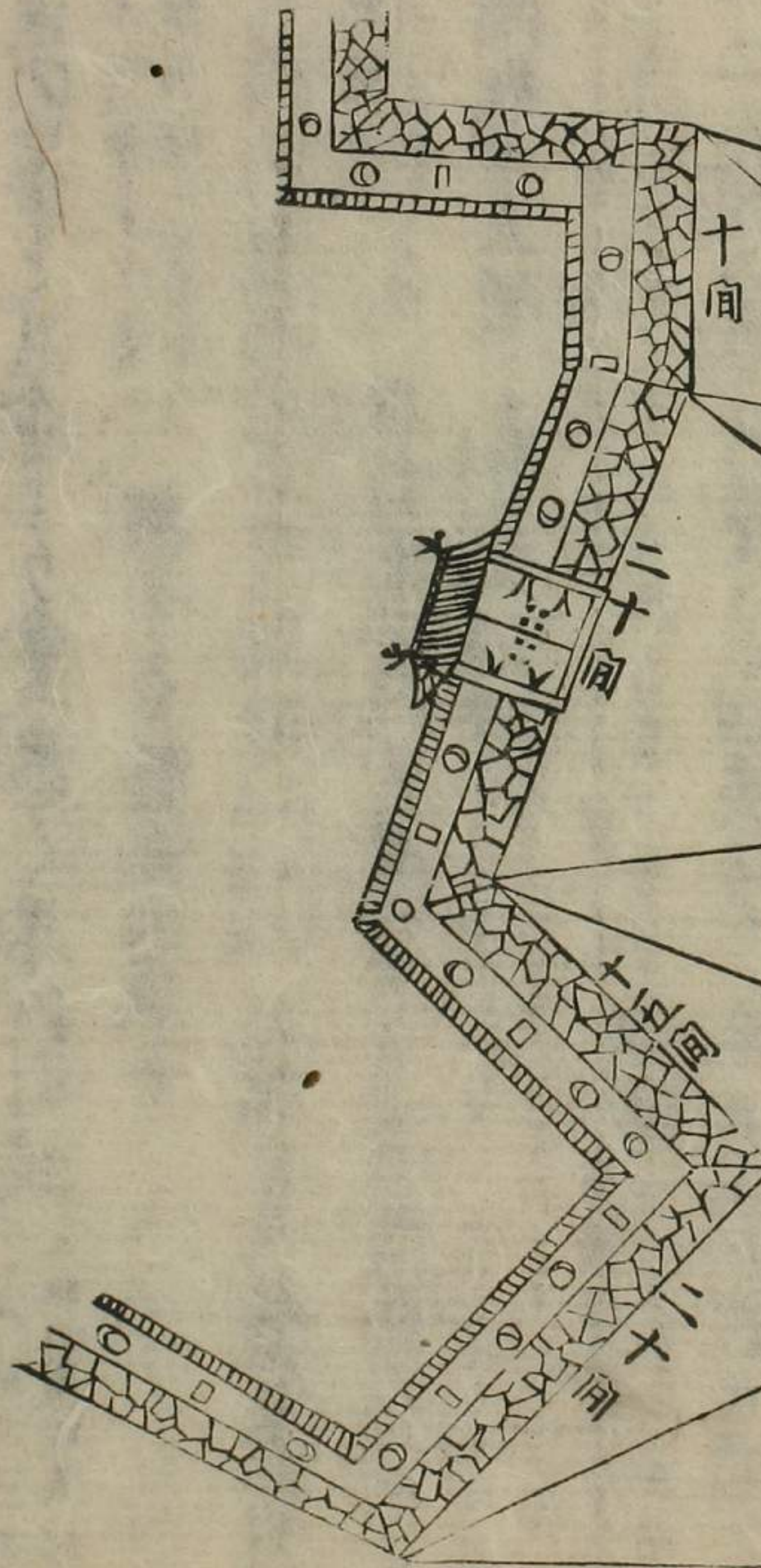
□假座

聖地

右正廂五間

本座

□假座



量地指南卷三

十四

量地指南卷三

十三

定規に隨ぐしく墨引引界<sup>〇</sup>初割盤法<sup>〇</sup>にて五所見込の墨と五取見返の墨と其會より會へ悉く界引渡<sup>〇</sup>  
一二の間二三の間三四の間四五の間  
然るに盤面大成と

今現る所の盤西の正口、開除<sup>〇</sup>の縮なり。盤東四所の

斜界ハ割盤法をかり、彼斜面四所の廣程なり。其盤西乃正口ハ

開除の間數五間、量合<sup>〇</sup>。矩<sup>〇</sup>と名する事。尤も左よりと

今此正口を七変に交し、五間の矩と名する事。尤も左よりと

をのこ。二二の間の界ハ量るふ四変なり。即其廣程九間なり。

二三の間ハ界ハ量るふ三変なり。即其廣程十五間なり。三四

の間の界を量るふ四変あり。即其廣程二十間なり。四五乃間の

界を量るふ二変あり。即其廣程十間なり。爰に於て四所ハ

廣程各自小なり。さうかたり

量盤術高深法

量深二術方

此術ハ山上小居く谷心の深程ハ量り。城樓小登く郭外乃

早程ハ知り。或ハ山河ハ棧橋と渡し。或ハ磯岸ハ井樓を

上る等に用也。今其谷心の直立ハ量る作法ハをのこ

爰に書すと。餘ハ是小倣ひく知るべし。此術ハ初ハ遠近術を

後ハ又其座より高深術を勤め。前後二術をかり。其深程の全跡を量り知るる。審み術中一記と

術云<sup>〇</sup>。下<sup>〇</sup>。圖<sup>〇</sup>。本座より初目的下の遠近術をのこ。

目的下の遠近術と云ハ。盤の彼を下を此と上とて遠近を

量るる。其ハ一ハ事ハ訓卷一記を改し其作法と不載。谷心の目的

空徑<sup>〇</sup>。地形の事ハ拘りふ。其の間數ハ量るふ八十丈なり。是ハ

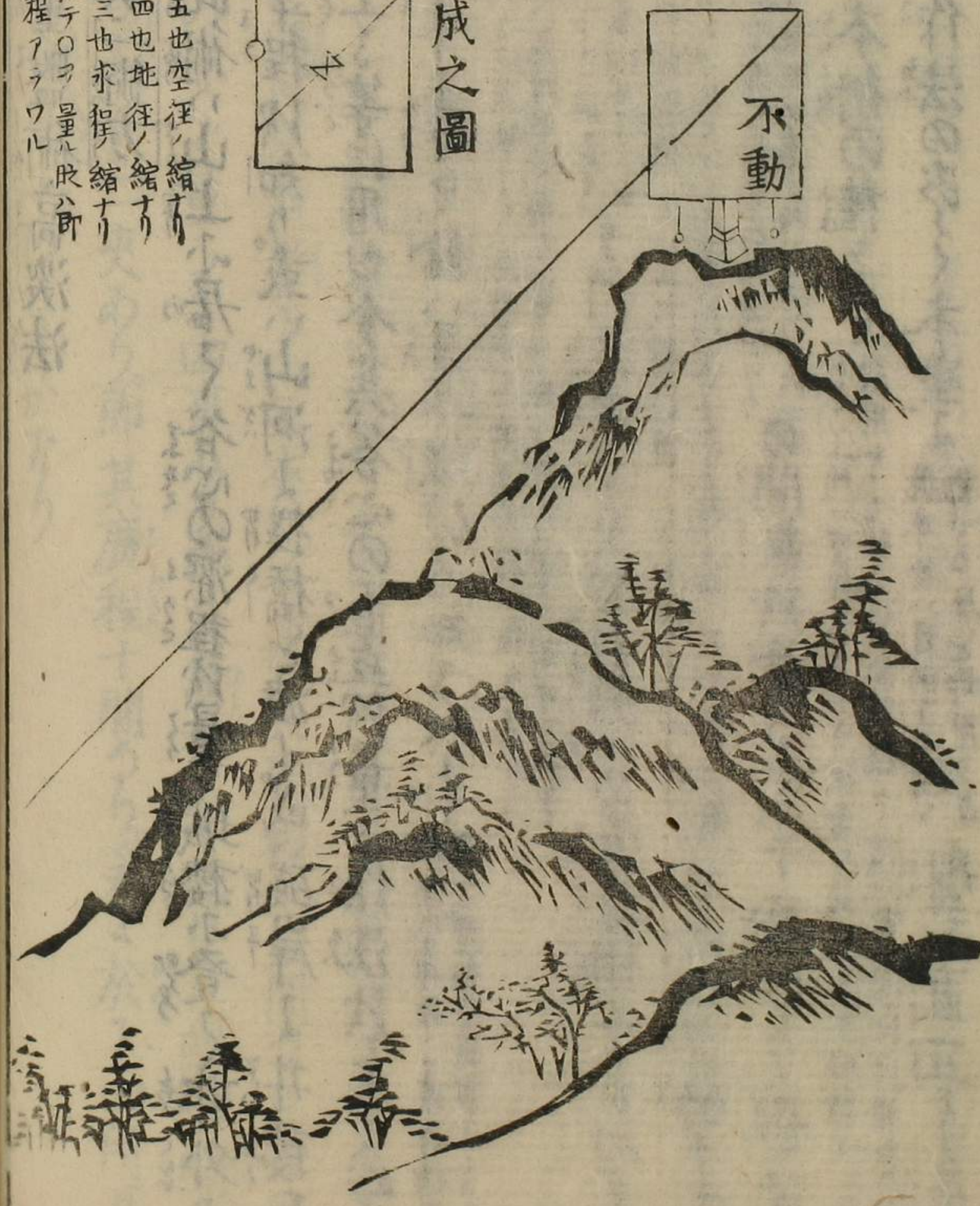
をて本術の種と云。右ハ所ハ空徑を量りて同數を得る。其の法ハ

後<sup>〇</sup>。初作法ののこ。本座より。勤る座を即用也。盤を直立る居

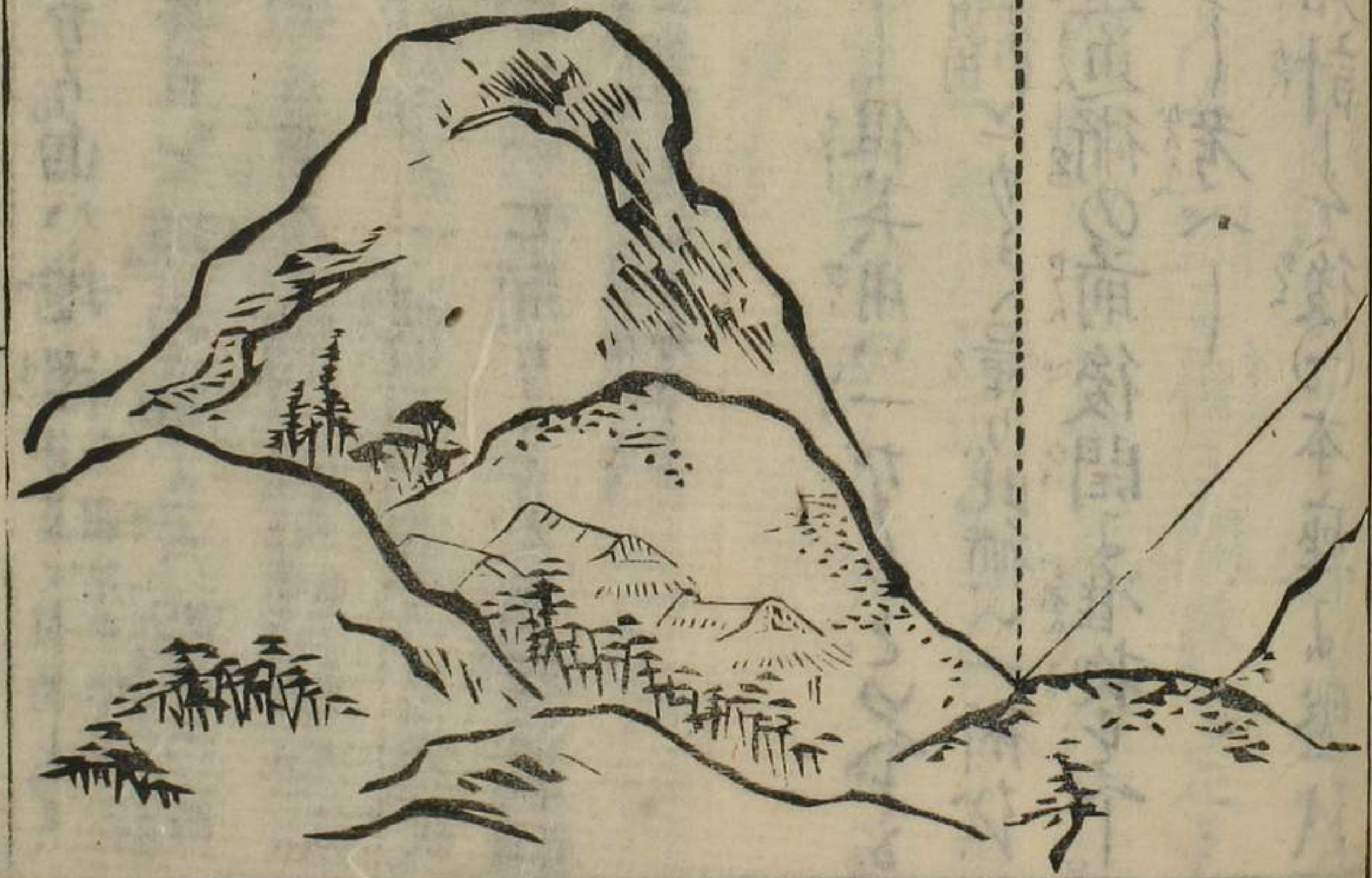


大成之圖

此又八五也空徑ノ縮ナリ  
 此△ハ四也地徑ノ縮ナリ  
 此○ハ三也求程ノ縮ナリ  
 又ヲ以テ○ヲ量ハ股ハ即  
 其求程アラワル



下ノ圖はさうごとく。盤北ハ上トシ。盤南ハ下トシテ居らう。其盤東盤西ハ勝手ノうらへさうえさうがらふ。爰ノハ盤西ト彼トシ。盤東ト此方トシテ居ゆらう。楯ハくハハ定規ノ針を刺盤良初巻ノまらせを要し。斜ノ谷心ノ目的へ見込墨引然すと時三四五般西ハ三トシ。盤北ハ四トシ。今ヲ引渡すと斜ノ墨引五トシ。の形現くと盤面大成と



今現於取の三、求程の深程の縮なり。四ハ地徑本座と目的と、其の縮なり。五ハ空徑本座と目的と、其の縮なり。其五と種の為、目的下の術也。量要具する空徑の間數八十間、量合盤中の斜の墨と、八変、其の縮なり。其矩斜の墨と、八変、其の縮なり。七分一変ハ十間なり。五変七分、即五十七間なり。是求程谷心直立深程七間の間數なり。或ハ其矩して、四ハ量要具ハ地徑の遠程なり。其矩して、五ハ量要具ハ空徑の遠程と知べし。

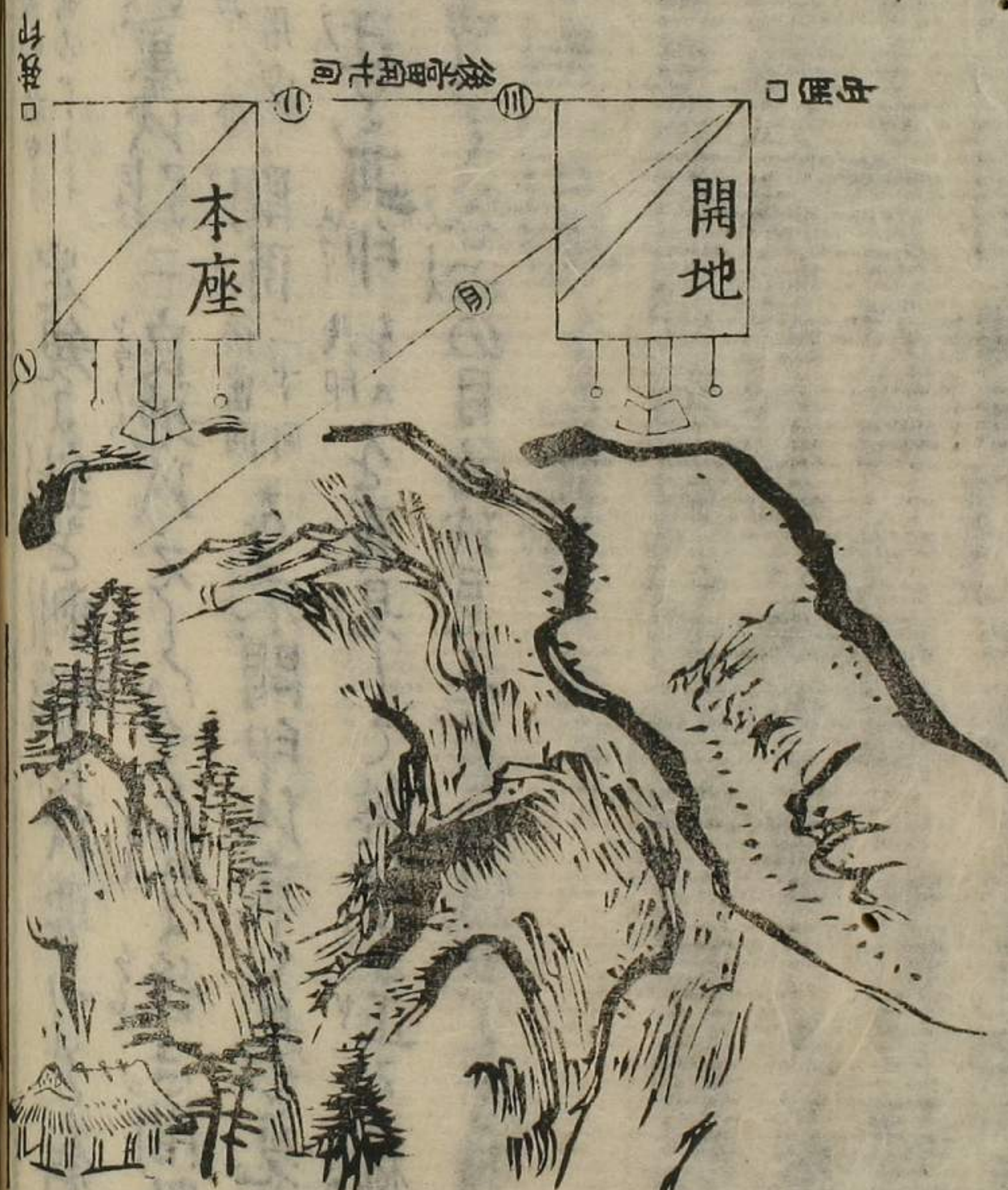
量深一術方

此術は、前術量深二術方、小公と。但其用ハ一なりと。其法ハ異なり。前術ハ二術遠近術、其法ハ異なり。前術ハ二術高深術、其法ハ異なり。其大畧、遠近術の前後、開は准拠と下。猶術中ハ巨細、代記と照らし考べし。

直立ノ君盤の君、前前の、定規ノ針針と刺盤盤良於要、其斜ノ谷心ノ目的と見込、墨引墨引、良地良地於之、正正後後之間數と定く。高深術向の間數も亦、三十分一の法を用ゆ。開除後當開、を求開印開印立立、是を見通、殘印殘印立立、開地開地迂迂其印其印を再見して盤盤正正極極、其盤良於要、其谷心ノ目的、其見込、墨引、然然時時三四五の形と別、差一口現現盤面大成と。

今現於所の三、直立直立、差口差口より上を号く。此縮口、其差口と合して、谷心の甚し、數金數金より故、差口差口於有於有、求程の縮なり。五ハ假借假借なり。四ハ元未假借元未假借、本座より谷心谷心、地中の直徑なり。其差、下を号く、開除後當開の縮なり。其差口、開除開除乃間數二十間、量合量合、二十間二十間の矩と名く、其矩と名く、彼彼二二、一変半一変半なり。求程の同敷同敷、其法、數金數金より故、其法、數金數金より故、今畧法を用ひ、差を加へ、求程と知べし。

一変ハ北同ウリ  
 半変ハ十同ウリ  
 二変半ハ即五十間ナリ。是求程深谷心直立の間の數  
 或ハ其矩をカク四を量リ本座より父口心まじく地徑の遠程ナリ。  
 其矩をカク五を量リ本座より父口心まじく空徑の遠程と知ベシ。



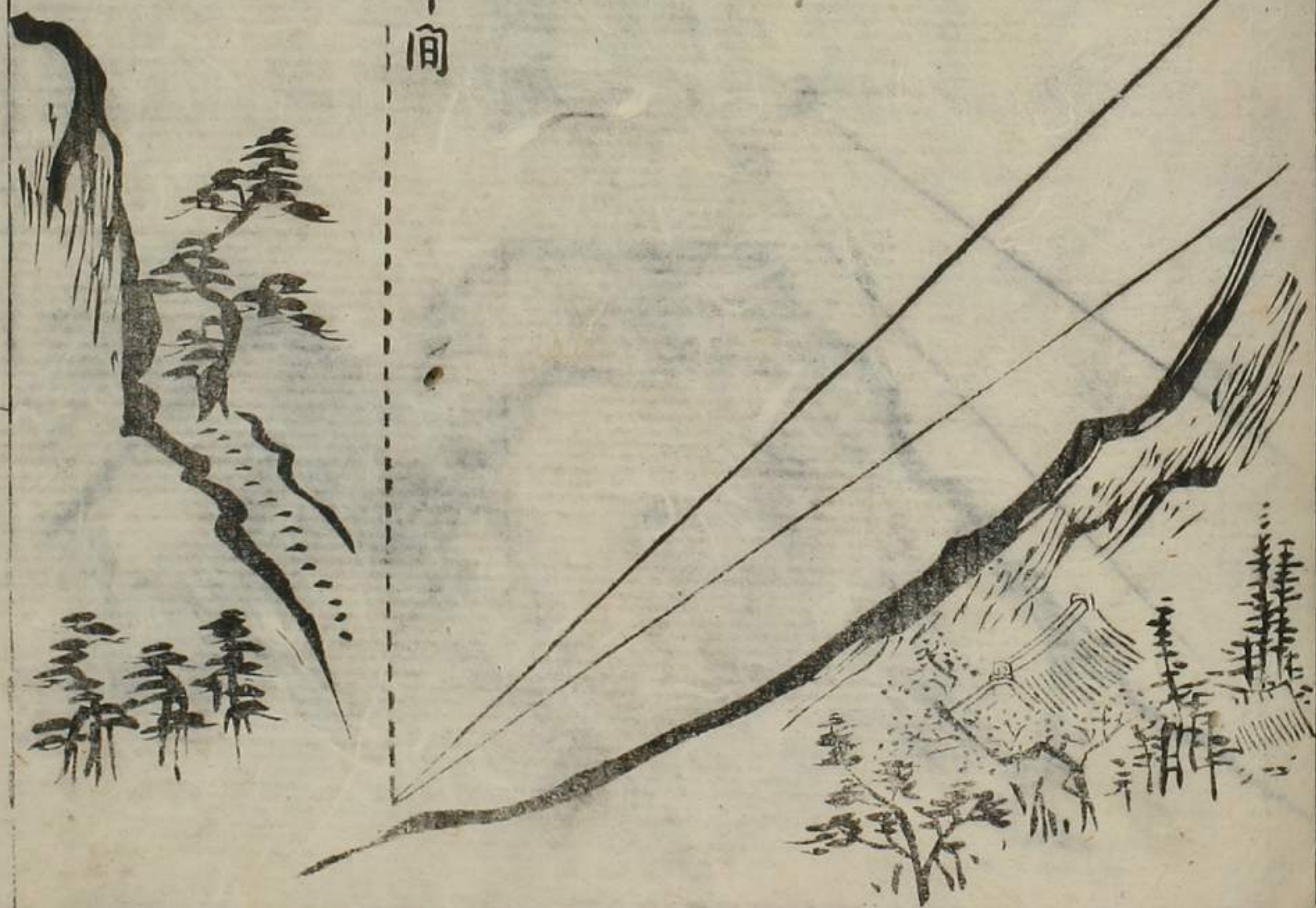
大成之圖

開地



△ハ差也兩除二十間ノ縮ナリ  
 ○ハ三也求程五十間ノ縮ナリ  
 ×ヲ以テ○ヲ量リ其求程アラワル  
 △ハ四也假借ノ縮ナリ実ハ地徑也  
 △ハ五也假借ノ縮ナリ実ハ斜徑也  
 ×ハ新五也假借也大成ノ後ハ無用ノ縮ナリ

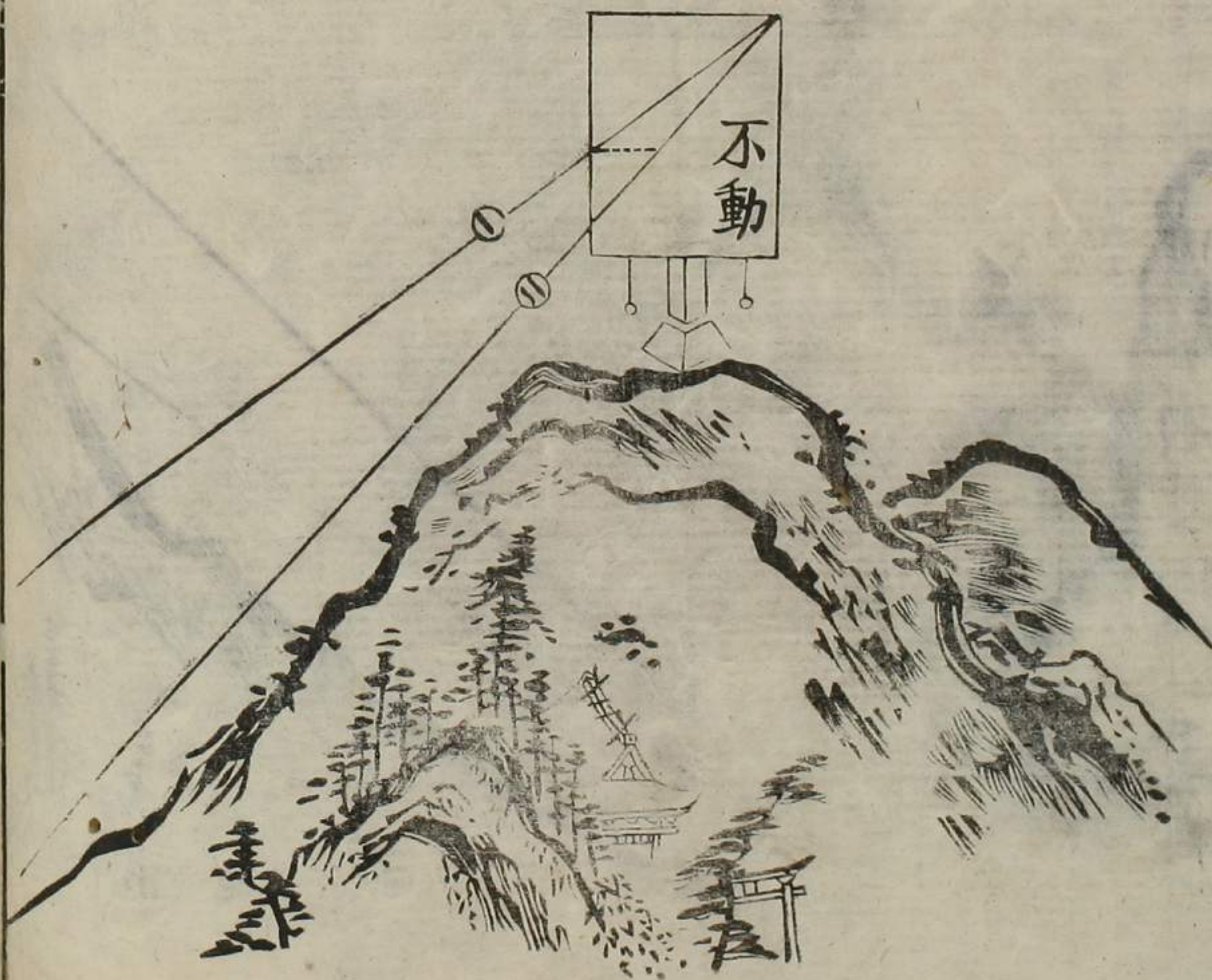
求程五十間



谷心量廣方

此術、峯峰小居て  
 山間の谷幅を量  
 樓上より城外の堀  
 幅次知る等も用也。  
 高低高低取より  
 低さ地の廣程を  
 量る術なり。今爰に  
 谷幅の廣程を知  
 作法と左に記す。其  
 餘、是は准して智  
 ず。

此量谷心廣方ハ、  
 目的下の遠近術

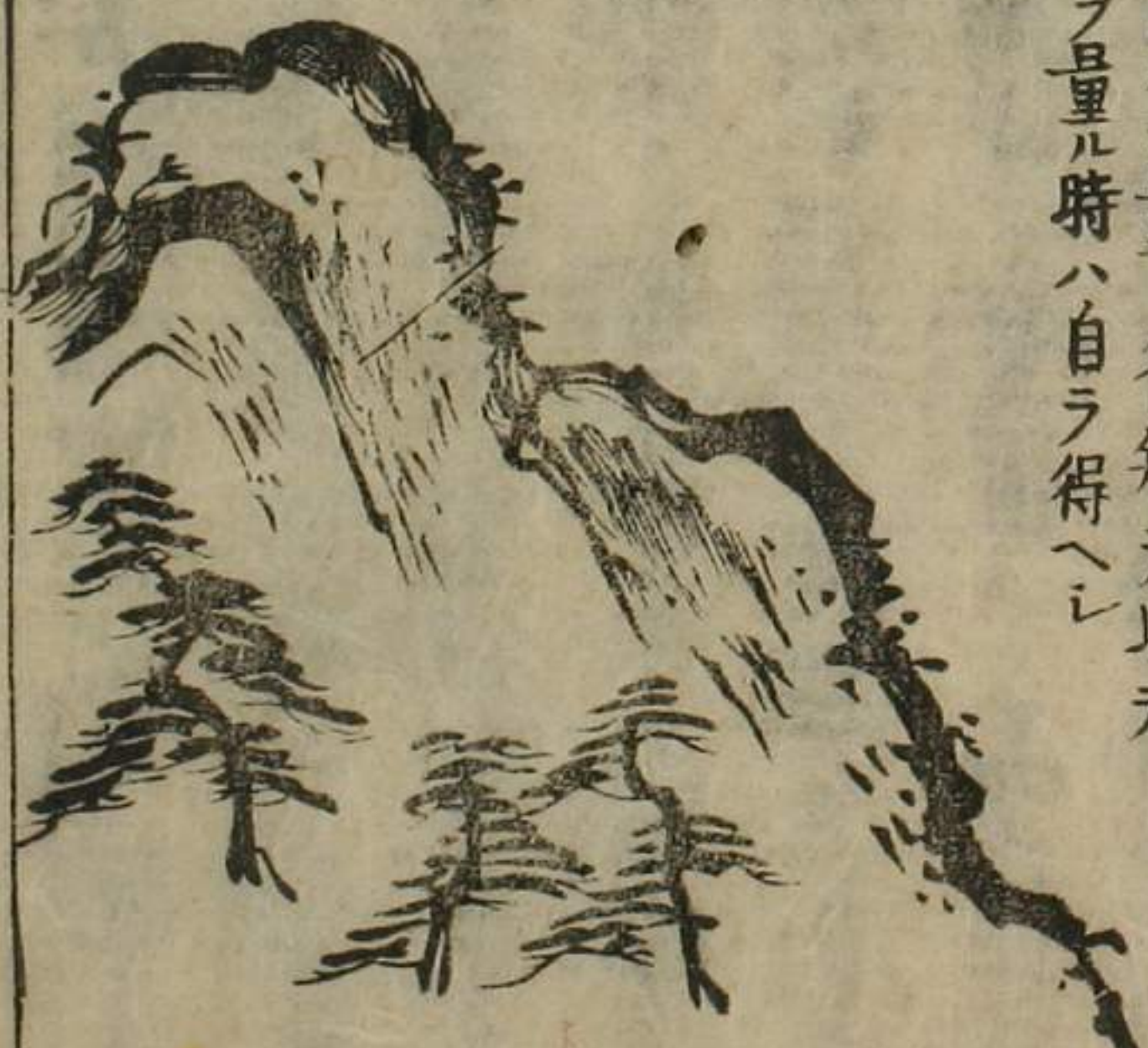


大成之圖



△ハ彼禁へ空徑七十間ノ縮也  
 ×ハ此禁へ空徑五十五間ノ縮也  
 ○ハ未程、地徑二十間ノ縮也  
 其△×ヲ量リタル矩ヲ以テ  
 ○ヲ量ル時ハ自ラ得ヘシ

術云、下の図を以て、先本座より初目的  
 下の遠近術、目的下の作法別章、をのこす。  
 彼山に禁へ見込空徑を量れば、其間  
 數七十間と知る。中又同術を以て  
 此山に禁へ見込空徑を量ると、小其  
 間數五十五間と知。此山の禁下も、彼山  
 空徑を量ると、量りても、其術同事なりとす。未  
 熟の人の為、彼此を量りて知べき法を述  
 此彼此の空徑を以て、本術の種とす。  
 是より、本座より彼山此山、兩禁下より、空徑  
 を量る別術あり。尤本術より、かく、かく、故に、  
 其因其辭を畧す。後、是より、高深術  
 して爰に不記。後、是より、高深術  
 して爰に不記。



長四十二間

此本座ハ。審初ニ遠近術を 小盤ヲ直立ス居 盤の居ヤリハ定規ノ

針ヲ刺盤良ニ要小シテ斜ニ彼山の禁下を見込墨ヲ引 界 扱 盤法ニ

彼山乃麓を見込ス墨を目的下此術少ク量置ス空徑乃

間數七十間 種ノ為小審初 量置合 變ニ十間ノ矩トシ 其矩をめ

此山の麓を見込ス墨を目的下の術少ク量置ス空徑の

間數五十五間 審初量置ス 量を取 此山林下見込の墨を上より

此墨の量留 此の見込の墨五十五間 量取ス留トシ 彼墨乃留

今現於所の彼の墨、彼山の禁下まぐ空徑 七十 縮なり此の

墨ハ此山の禁下まぐ空徑 五 縮なり今引渡ス正横の

正横の界は量ス小二交なり。一交十間 二交ハ即二十間を

是求程 山間谷心の 地徑二十間 の間數なり

量高二術方 此術ハ平地小處一々。大山高岳より以下城樓宮室

堂塔樹竹等。まぐ高程は量ス小用也。今其山岳直立

の高程は量る作法は。爰小書と其他推知す

此術ハ初ニ遠近術をめ。其空徑を量り。後ニ其座

術云 取をめて云 本座より 初目的上乃遠近術を

目的上の遠近術とシ。盤の彼を上げ此以下下けて遠近を

空徑 遠程を前後後之 の間數は量るは百丈なり是れ

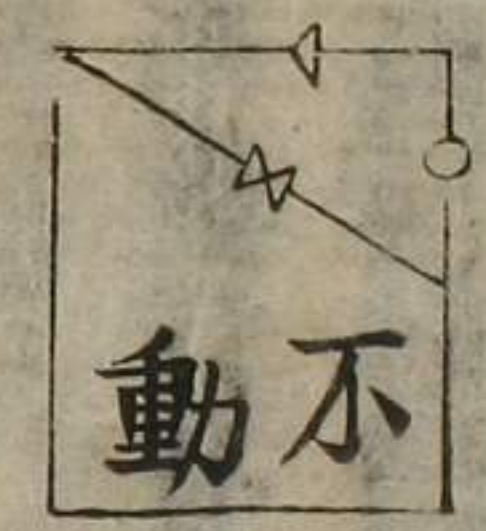
本術の種トシ。右ハ空徑を量る間數を得るの作法小

後 扱本座 此本座ハ即目的上の術 盤を直立ス居 故ニ

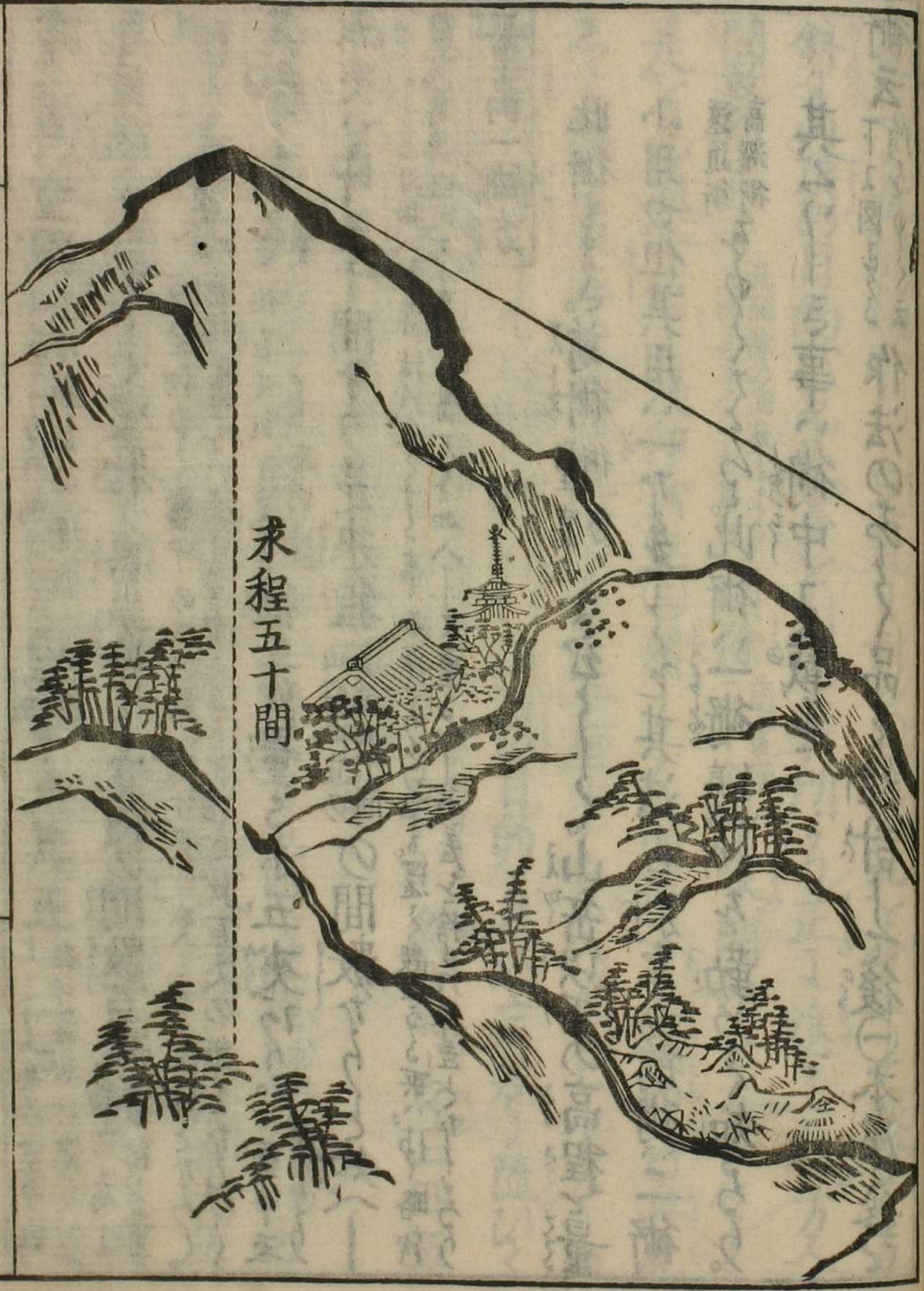
量地指南卷三

定規ノ針を刺般盤乾を  
 會あふして般盤東より斜  
 山頂の目的状見込  
 定規ノ隨ひく墨を引  
 然らざるは三四五乃  
 盤東を三とし盤北を四とし  
 斜の墨は五とし平陸術こそ  
 山谷術こそ何時も見込ハ  
 五と成らり山谷術の見込ハ  
 平陸術の見返のこらなり  
 形現を般盤面大成と  
 今現る所の二ハ求程  
 山心直立  
 の高程の縮なり四ハ地  
 徑本座より目的まの遠程の縮

大成之圖



○ハ三也求程五十間ノ縮也  
 △ハ四也兩山間地徑ノ縮也  
 ×ハ五也彼此向空徑ノ縮也  
 ×ヲ初ニ量置タル空徑ノ  
 同數百丈ニ量リ合其矩ヲ  
 以テ○ヲ量リ求程ノ向數ヲ  
 得ル也猶本文ニ委シ



求程五十間

かり。五、空徑本座より目的まぐの縮なり。其五上より取の空中斜の遠程の墨を  
を目的上の術空斜徑の遠程に家初の量置種の為よに空徑の間數百丈家初一量  
置。渾彙ハカキ。盤中の五の墨は。十交一交。十丈の矩とナリ。  
大なり小量合勿論此墨と一交は量合とナリ。是ハ百丈の矩とナリ。  
其矩とて空徑百丈ハ十交一彼三ハ五ハ五交なり。一交十丈  
五交、即五十間なり。是求程山心直立のの間數なりと知べし  
とて高深術ハ。刺盤法ハ。メニ事本法より。還る。數金。取ハ。略ハ  
用也。前後微乏。又小事ハ。盤尺を加へて量るべし。小差を捨てハ大差とナリ。

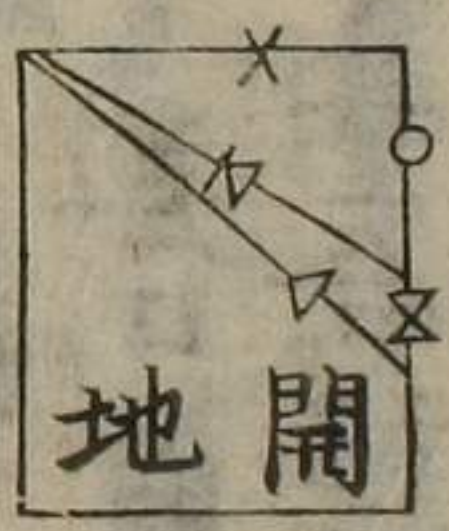
量高一術方

此術もまた。前術量高二の縮なり。山岳以下の高程と量  
小用也。但其用ハ一カをと其法ハ別なり。前術二術  
遠道術高深術を勤をる。此術二術高深術を勤をる。知るる。  
其二事ハ術中ニ載とす  
術云下ハ四ハ作法の品々始計して後一本座ハ盤  
直立ハ居前ハ定規針を刺盤乾會ハて盤東より斜山頂の目的見込墨を引二其所より正進こ彼方へ  
間數決定大略三十分一開除前當を求開印を立とす  
是と見通本座ハ殘印ハ立然々開地至殘印ハ再見  
る盤と直立ハ極此所より本座より見込あるおとす  
盤乾會ハて定規針を引上斜ハ當て山頂の目的見込定規ノ隨ハて  
墨ハ引此術惣して平陸術前後間の作法ハおハル  
盤東と三ハ盤北と四ハ斜墨と五との形現ハ盤面大成と  
今現ル所の三ハ求程山心直立の縮なり。四ハ地徑彼此二間の  
縮なり。五ハ假借或又の縮なり。差口ハ開除前當の縮なり。  
其差口ハ開除の間數廿間一量合。差口ハ二交一交。其矩とて  
彼三此三。真の地徑と量る種と。実ハ求程の間數也。と量る。三交一交。

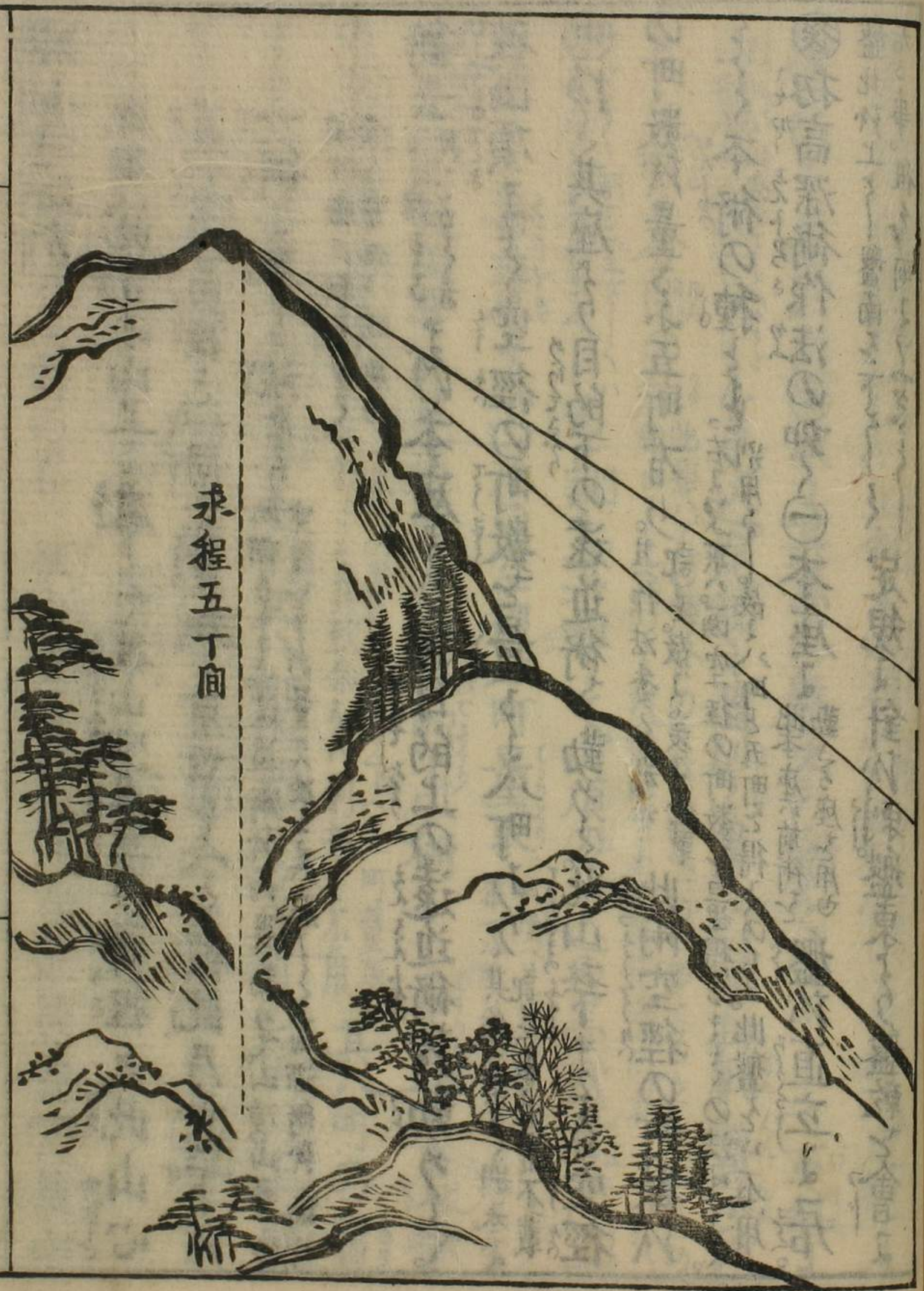
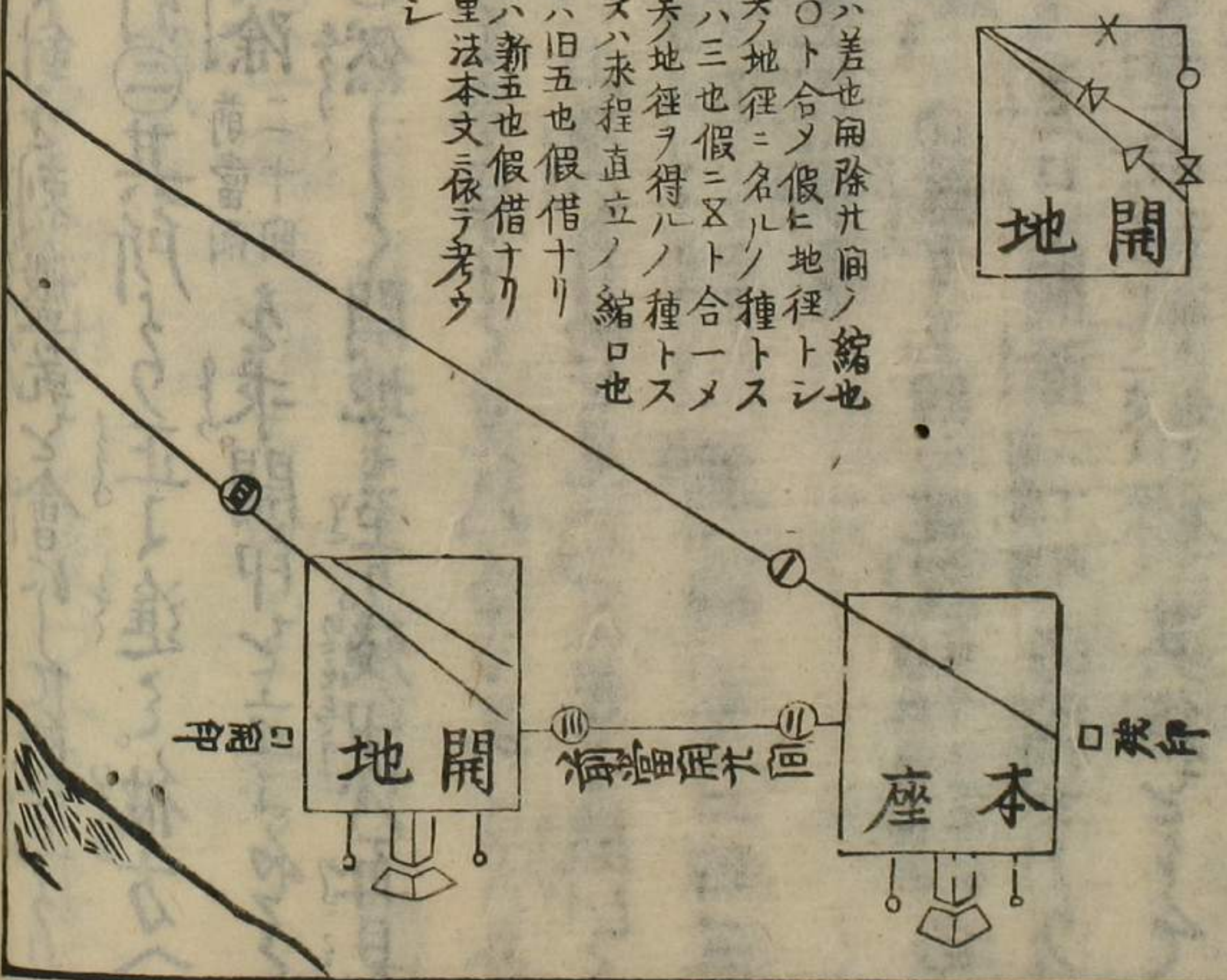
直立ハ居前ハ定規針を刺盤乾會ハて盤東より斜山頂の目的見込墨を引二其所より正進こ彼方へ  
間數決定大略三十分一開除前當を求開印を立とす  
是と見通本座ハ殘印ハ立然々開地至殘印ハ再見  
る盤と直立ハ極此所より本座より見込あるおとす  
盤乾會ハて定規針を引上斜ハ當て山頂の目的見込定規ノ隨ハて  
墨ハ引此術惣して平陸術前後間の作法ハおハル  
盤東と三ハ盤北と四ハ斜墨と五との形現ハ盤面大成と  
今現ル所の三ハ求程山心直立の縮なり。四ハ地徑彼此二間の  
縮なり。五ハ假借或又の縮なり。差口ハ開除前當の縮なり。  
其差口ハ開除の間數廿間一量合。差口ハ二交一交。其矩とて  
彼三此三。真の地徑と量る種と。実ハ求程の間數也。と量る。三交一交。

あり。其上より差口乃二十間を  
 加せば都合八十間なり。是  
 真の地徑 其地徑といハ 盤四を指し、號なるま  
 種なり。初新、矩法をよみて  
 始一三と差とくひて、矩をハ  
 不用して、今まて四は量る為。別  
 矩法なり。四を地徑の八十間小  
 量合 新、渾、発、分、初、二、三、此、四、ハ  
 八、交、一、交、二、十、間、の、矩、と、名、く  
 其矩ゆゑ再度三を量る  
 三ハ初度後度二度量るなり。初ハ  
 差口と合して假の地徑八十間用ひ  
 交ゆゑハ求程の五交有り。一交十間  
 間数に用るなり。五交有り。一交十間  
 五交ハ即五十間なり。是求程  
 山心直立の  
 高程五十間の間数なり

大成之圖



又ハ差也、兩除、九、間、ノ、縮、也  
 又〇ト合ノ假ニ地徑トシ  
 真ノ地徑ニ名ルノ種トス  
 〇ハ三也、假ニ〇ト合一メ  
 真ノ地徑ヲ得ルノ種トス  
 實ハ求程直立ノ縮口也  
 △ハ旧五也、假借ナリ  
 △ハ新五也、假借ナリ  
 量法本文ニ依テ考テ  
 へ



求程五丁間



兩山同知方

此術此方の山上處して彼山心直立の高程と此山心  
直立の高程と一同に量知る用也。とて彼此乃高下  
一術に量る法なり。此術ゆき。遠近術は二度勤う。山頂山麓の  
前中後三術をゆく。空徑をさし量り。次に其座より高深術を勤う。  
全く量知る法あり。

術云下二箇す。すの本座より初目的上の遠近術を勤う。

彼山頂より空徑の町數を量る。八町あり。其作法委しく別卷に記す。故に爰に不載

中ゆき其座より目的下の遠近術を勤う。此山麓より空徑

の町數は量る。五町有り。其作法委しく別卷に記す。故に爰に不載此兩空徑の町數は

本術の種とす。右より取ハ。兩空徑の町數を量得るす。この法のしして

後扱高深術作法の如く。一本座より此本座は前術を勤ふる座を用也盤は直立し居

盤北外上より盤南を下より。定規針針刺。盤東より盤乾を會

え。上斜に山頂山頂小目的有るを見込。定規

隨ひく墨を引。三次其墨の盤東の端を要し。下斜に

山麓山麓小目的有るを見込。定規隨ひく墨を引。界扱盤法は

新に分間の矩此矩はさし渾発の口は用さ。一町の矩と名をき。何まの

を設き。其矩より山頂の見込の墨は目的上

の術に量置。山頂の空徑八町量取。山頂へ見込の墨は此より

又山麓の見込の墨は目的下は術に量置。山麓

の空徑五町量取。然して其残余をい。刺捨く不用其八町の留

より五町の留へ斜に界を引。又八町の留より五町の留に正横

より正立し界を引。又五町の留に正横より右に盤東の端左に

八町の留の正下より界を引。然して盤面大成と

今現る所の。上斜の界は彼山登斜の縮なり。正立の界は彼山

求程山心直立の高程の縮なり。

正横の界、彼此山間の地徑なり。又短堅の

墨盤東の中やと短堅の墨、此山

求程山心直立の高程の縮なり。

上斜の墨、彼山空徑

の縮なり。下斜の墨、

此山登斜の縮なり。扱

其、一斜と下斜との墨

を、八町と五町と量取

らむ。矩をゆく。正堅の

界を量らむ。五夾有り。

一夾一町 五夾ハ

即五町なり。是

彼山求程彼山心の直立

の町數なり。又

其矩ゆく。短

堅の界と量ら

む。一夾半あり。

二夾半ハ即二

町半なり。此

此山求程此山心の直立

の町數なり。

或いは其矩ゆく。上斜の界は量む。此山登斜の遠程なり。

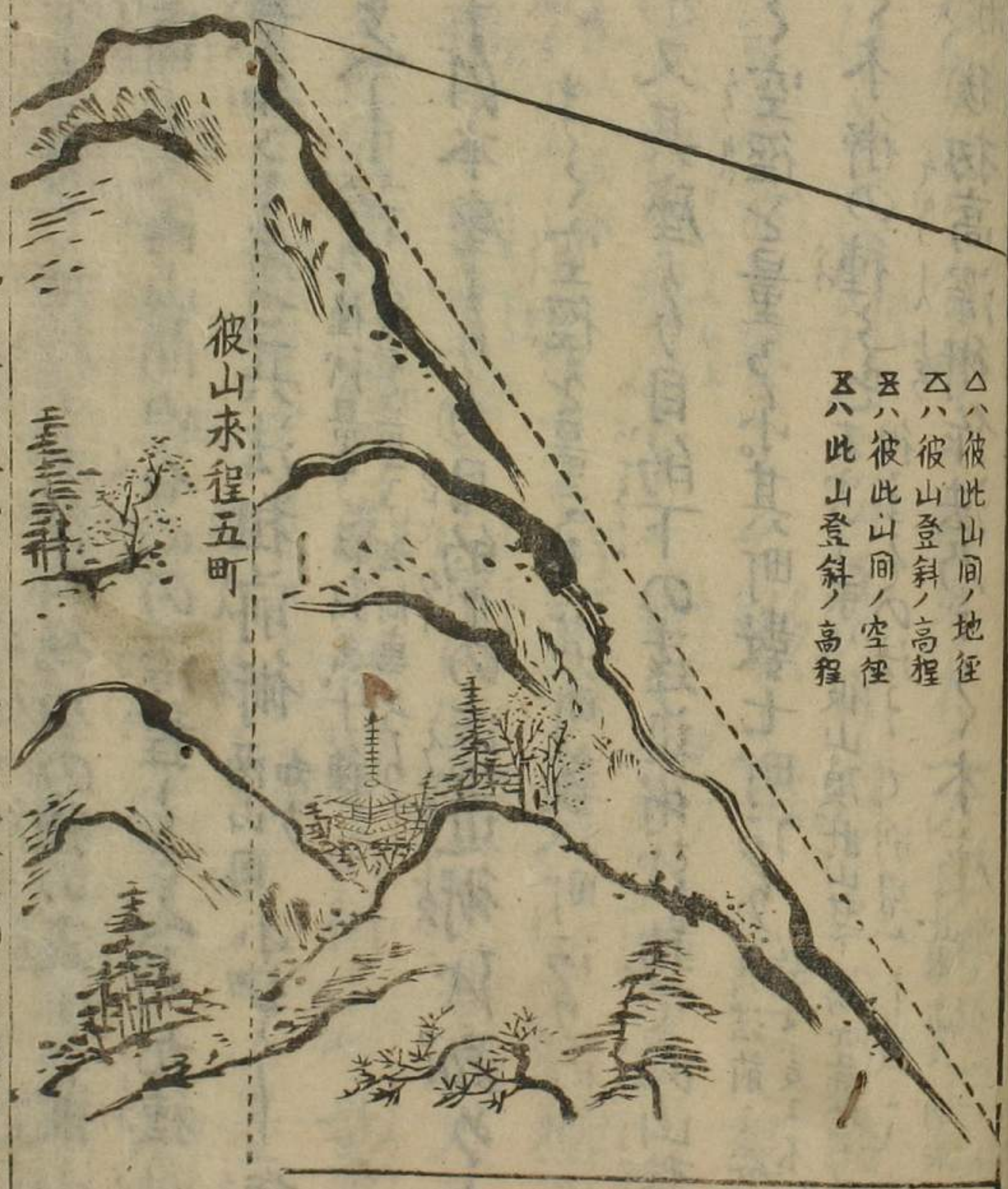
正横の界は量む。此山心より彼山心まで地徑なり。上斜の墨は

量む。此山頂より彼山頂まで空徑なり。下斜の墨を量む。此山登斜の遠

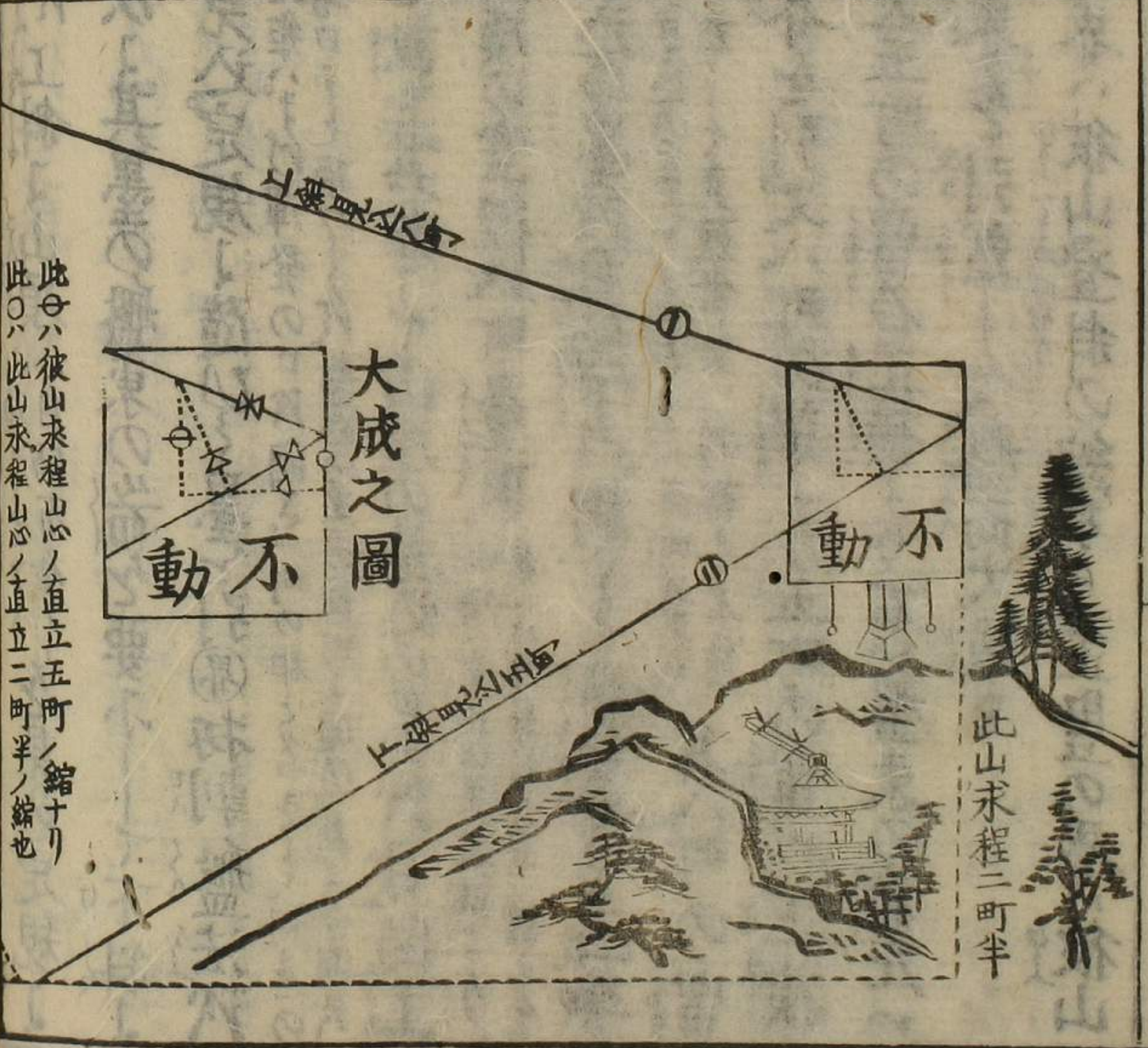
程なり。此術小事。盤尺より加入して量む。小差を捨て、大差とす。此の

量地抄南卷三

九五



- △ハ彼此山間の地徑
- △ハ彼山登斜ノ高程
- △ハ彼此山間の空徑
- △ハ此山登斜ノ高程



此ハ彼山求程山心ノ直立五町ノ縮ナリ  
此ハ此山求程山心ノ直立二町半ノ縮也

山谷數知方

此術此山の山頂一居く。彼山の高程と。登斜と。地徑と。又此山の高程と。登斜と。地徑と。又彼山絶頂の樹の丈と。彼山半腹の堂の高と。又兩山間の谷心の深程と。とて九種。唯一術をのく量知るよ用也。其法粗前術兩山同小むし。猶勤て審小とべし今九種は墨量法云。十種を墨量ると同事るなり。

術云下二図を。本座より初目的上の遠近術勤め。

彼山頂頂の樹の根と。空徑を量る。其町數八町其作法。

別卷より故。中又其座より目的下の遠近術勤て此山禁

山禁下。空徑を量る。其町數七町其法前委し。

此兩空徑をのく本術の種と。右小の取。彼山頂此山禁下。兩空徑を量

と七町との兩徑を得。後扱高深術作法乃。本座此本座は前術と。

小盤以直立。居盤乾を會ふ。一の目的以上斜小

見込。定規。隨ひ。墨以引。二三四五の目的と。一の目的以

見込。般東の墨以。希を要し。段々斜見込。定規。

隨ひ。墨以引。扱盤法を。新分間の矩法をふき。

新一矩を制する。作法は。前術兩山同知方。記さ。其矩少。彼山頂の見込墨以種乃。

為小目的上の術少。量置る。山頂の空徑八町。量合又其

矩少。山禁の見込の墨以種乃為小目的下の術少。量置

る。山禁の空徑七町。量取量合と墨取と別意。其八町の墨以乃

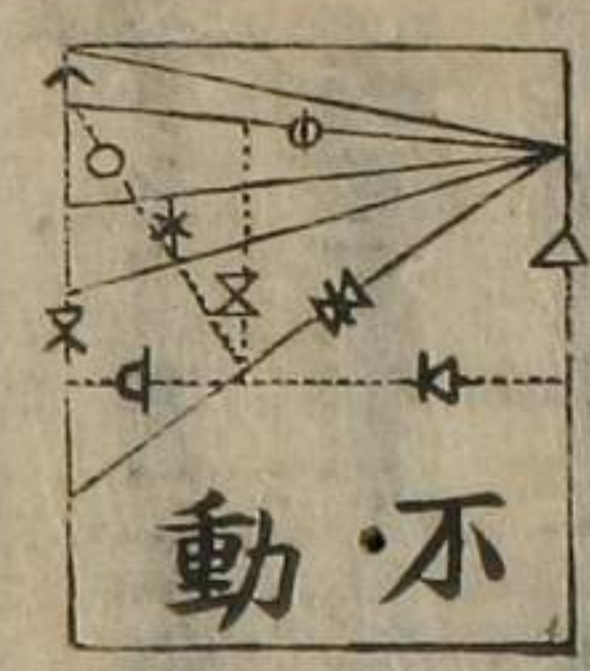
留り。其七町の量留中斜。界を引又七町の量留。天へ

二の墨以。正堅立。界を引又斜の界と四里墨の會り。天へ

三の墨以。正堅立。界以引又七町の量留。左右へ正横小

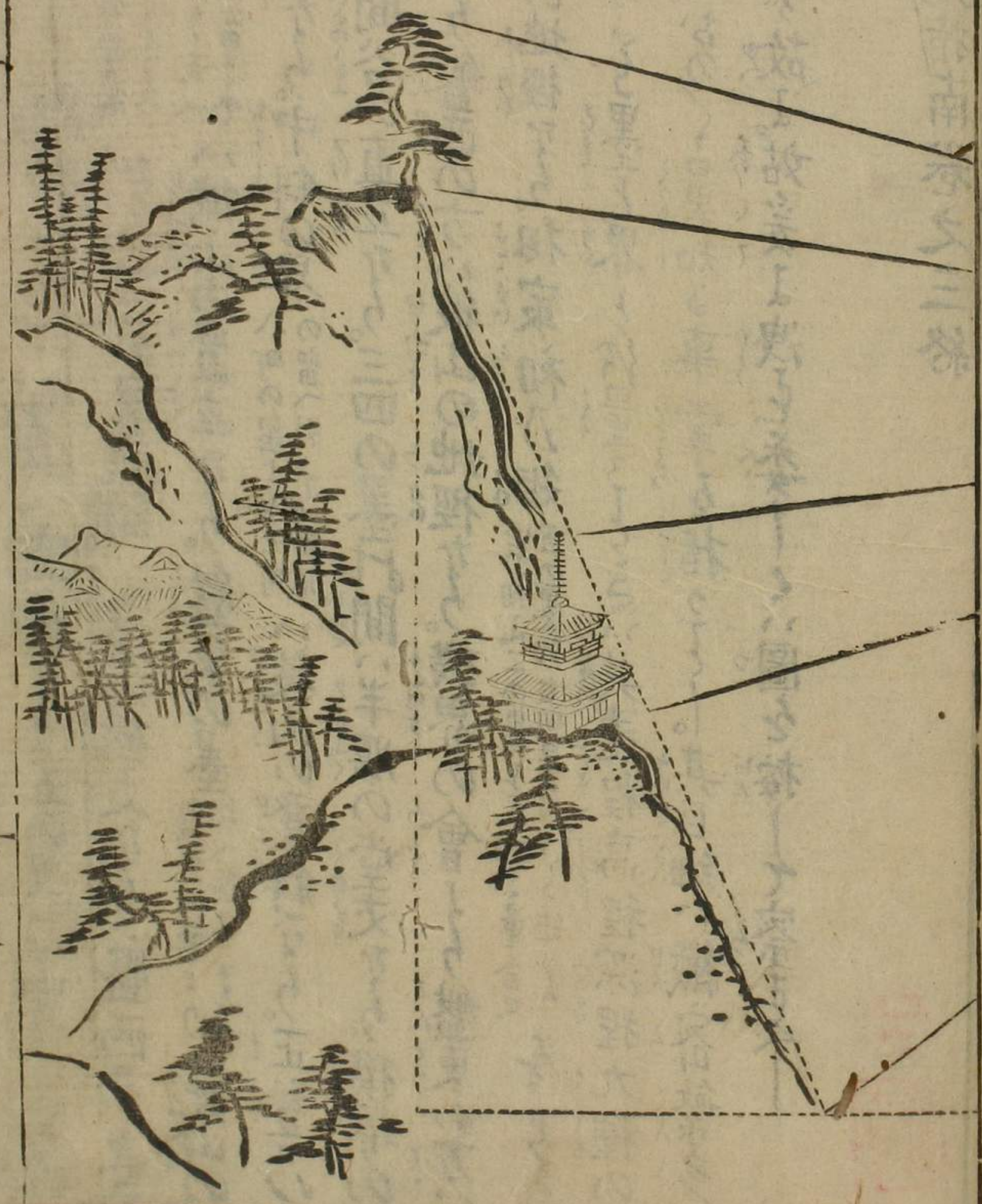
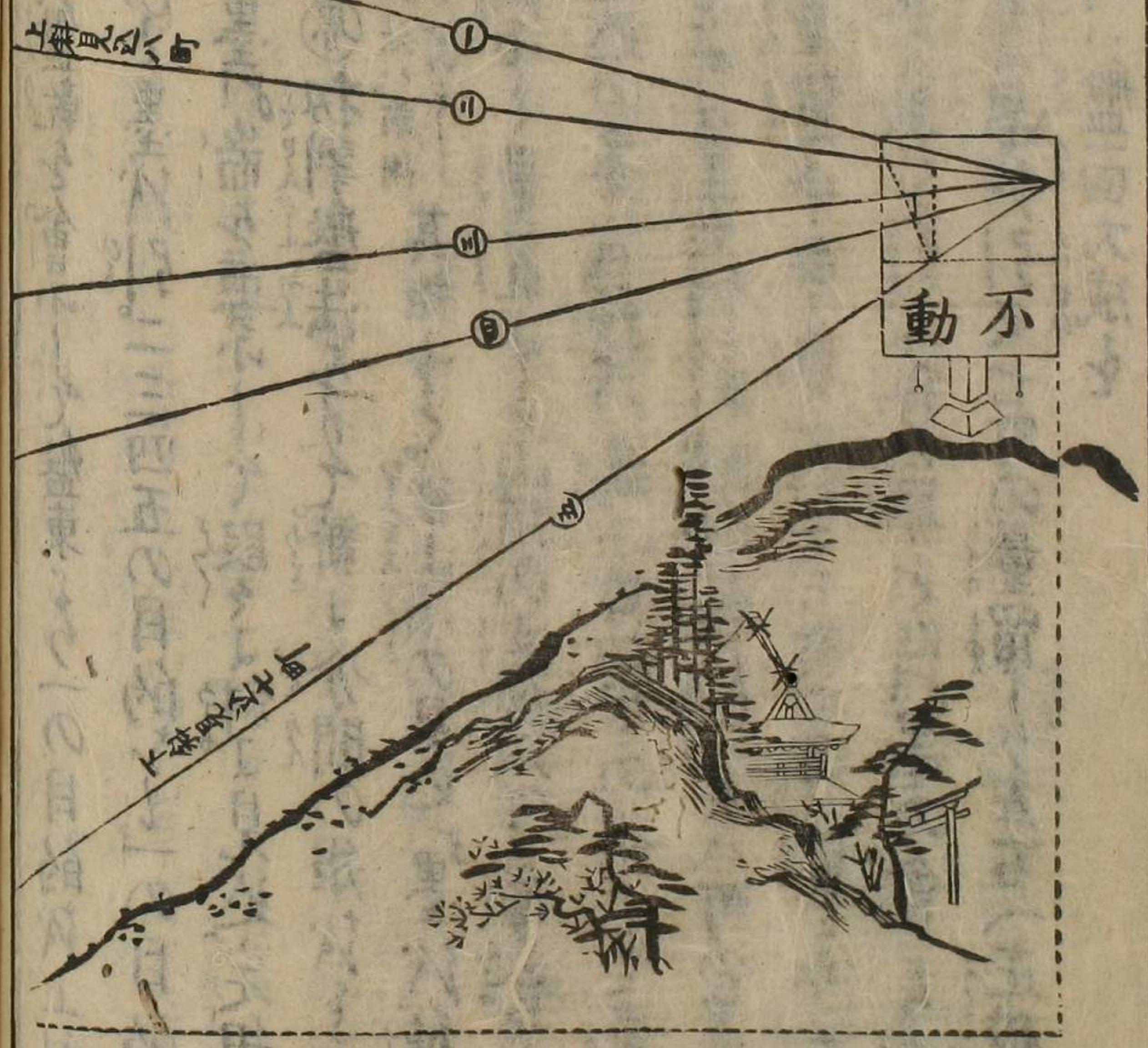
界を引然。時盤面大成と。

大成之圖



動不

〇 山頂へ空徑也又山麓へ  
 空徑也二法八種ニメ僞借也  
 へ 山頂ノ樹大也  
 又 山頂ノ直立也  
 △ 此山ノ直立也  
 ○ 彼山ノ登斜也  
 × 中谷ノ直立也  
 △ 半腹ノ堂大也  
 △ 此山ノ地徑也  
 ○ 彼山ノ地徑也  
 × 此山ノ登斜也  
 以上九種ニ種子ノ  
 同教ヲ量タレ矩ヲ  
 以テ量知ルナリ



今現る所の二の墨は山頂へ空徑なり。五の墨は山麓へ空徑  
 又此山の登斜トモと用るなりなり。二の墨は間山頂の樹丈なり。盤西乃墨  
 横界より天へハ彼山の置立なり。盤東の墨盤東の要より北へ横界までハ此山の  
 斜界の留まで。直立なり。中斜の界八町の留より七町ハ彼山の登斜なり。正堅丸の  
 界ハ間谷の直立なり。三四の墨は間ハ半腰の堂丈なり。横界の  
 會より盤西の方ハ彼山の地徑なり。横界の會より盤東の方ハ  
 此山の地徑なり。扱取初乃矩扱初。二の墨を八町量合ロセ。五の墨ハ七町量取ハ其遠程高程深程九種の  
 現るる墨と界とハ量るる事ハ其遠程高程深程九種の  
 來程おのく量知る事掌を指ぐ事。其巨細ハ織密山敏多  
 かり故。姑爰ハ洩とと委一ハ圖を按して察すとす。

量地指南卷之三終



Handwritten notes in the bottom left corner, including the characters '中家' and some illegible scribbles.

